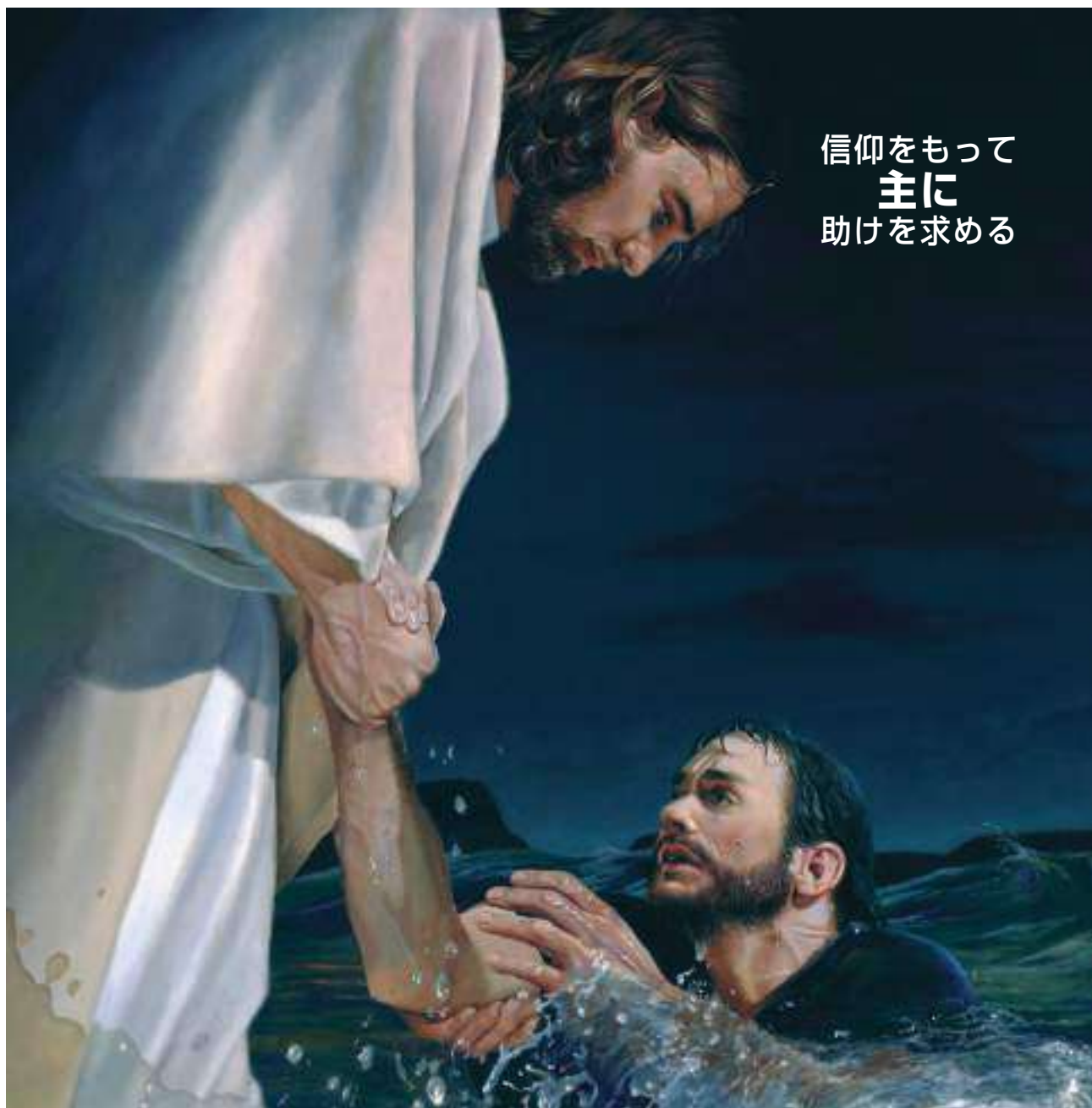


リアホナ

皆の思いをイエス・キリストへ



信仰をもって
主に
助けを求める

ウークトドルフ長老からのメッセージ

恐れる必要はない、
4ページ

コードン会長からのメッセージ

わたしたちには人を引き上げる力がある、
40ページ



「弟子たちはみそばに寄ってきてイエスを起し、
『主よ、お助けください、わたしたちは死にそうです』
と言った。
するとイエスは彼らに言われた、『なぜこわがる
のか、信仰の薄い者たちよ。』それから起き
あがって、風と海とおしかりになると、大なぎに
なった。』

嵐からの避け所

暴風雨の中で避難所に身を寄せたことがありますか。降り注ぐ雨が屋根に激しくたたきつけ、ほかの音をかき消します。嵐の中でぬれずにいるためには、どうすればよいのでしょうか。救い主の力と臨在は、そうした避け所のようなものです。

『リアホナ』の今月号は、イエス・キリストが人生の嵐の中でどのように平安をもたらしてくださるかに焦点を当てています。試練や困難は否応なしにやって来ます。しかし、雨の中でも避難所にいればぬれずに済むように、わたしたちがイエス・キリストを招いて人生の旅に同行していただくなら、主は嵐の中で平安を見いだすのを助けてくださいます。ディーター・F・ウークトドルフ長老による記事「わたしの平安をあなたがたに与える」(4ページ)をぜひ読んでください。ウークトドルフ長老は次のように教えています。「自然の力を制御しておられるイエス・キリストは、わたしたちの重荷を軽くすることもおできになります。」また、「たとえわたしたちが苦しみ、悲しみ、主を待たなければならぬとしても、わたしたちの心から平安が取り去られなければならないということはありません。」

わたしも人生の中で「嵐」を経験してきました。それらの試練はわたしに、イエス・キリストは確かに唯一の永続する助けと平安の源であられることを教えてくれました。わたしが記事「起き上がらせる力」(40ページ)で分かち合っているように、救い主はわたしたちの家路をともに歩んでくださり、しかも喜んでそうしてくださいます。わたしたちが約束された祝福を待つ間、主はともにいてくださいます。そして、主に引き上げていただくのに遅すぎることは決してありません。主はあなたを愛しておられます。どんなことに直面しているとしても、あなたが主に自分の避け所、安全な場所となっていていただくように祈っています。

愛を込めて、



ボニー・H・コードン
中央若い女性会長





「自然の力を制御しておられるイエス・キリストは、わたしたちの重荷を軽くすることもおできになります。主は個人と諸国民を癒す力を持っておられます。」

—ディーター・F・ウークトドルフ長老, 4 ページ

特集

末日聖徒イエス・キリスト教会の公式機関誌

リアホナ
2023年3月号
第47巻3号
(18905 300)

表紙



「風に向かって」リズ・レモン・スウィンドル画。複製は禁じられています。

目次

- 4 「わたしの平安をあなたがたに与える」
ディーター・F・ウークトドルフ長老
イエス・キリストの贖罪を通して、わたしたちは人生における「嵐」の中で平安を見いだすことができます。
- 8 わたしたちの神聖な本質が帰属意識と自分がどのような者になるかに及ぼす影響
ジョン・C・ピングリー・ジュニア長老
自分の神聖な受け継ぎを覚えているとき、わたしたちの多様性は人生に美しさと豊かさをもたらします。
- 14 キリストの模範に従う：助けを必要とする人々への支援
ケリー・クリステンセン
教会員による人道支援活動や寄付が、助けを必要としている人々をどのように支援してきたかについてお読みください。
- 18 世界の教会
南アフリカ, ヨハネスブルグ
- 20 ミニスタリングの原則
希望と信仰をもってミニスタリングを行う

- 22 福音の基本
神権の祝福
- 25 信仰の肖像
あなたはずっと知っていました
ホセ・G・フランコ
- 26 末日聖徒の声
主が様々な方法でわたしたちに導きと慰めのメッセージを送ってくださることを伝えている、世界各地の会員から届いた霊を鼓舞する物語。
- 36 親のために
主の力と預言者を信頼する
- 38 信仰をもって歳を重ねる
年を取っても、慈愛はいつまでも絶えることがない
リチャード・M・ロムニー
自立生活施設で暮らす3人の姉妹が、思いやりと愛をもって支部扶助協会会長会で奉仕しています。

大管長会：ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、ヘンリー・B・アイリング

十二使徒定員会：M・ラッセル・バラード、ジェフリー・R・ホランド、ディーター・F・ウークトドルフ、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセン、ロナルド・A・ラスバンド、ゲーリー・E・スティープソン、テール・G・レンランド、グレット・W・ゴンク、ウリセス・ソアレス

編集長：ランドール・K・ベネット

編集長補佐：リカルド・P・ヒメネス

顧問：ジャン・E・ニューマン、マイケル・T・リングウッド、クリスティン・M・イー

実務運営ディレクター：リチャード・I・ヒートン

教会機関誌ディレクター：アーロン・ジョンストン

出版チームマネージャー：リー・ギボンズ

ビジネスマネージャー：ガフ・キャン

編集主幹：アダム・C・オルソン

編集主幹補佐：ブリタニー・ピーティ、ライアン・カー、C・マシュー・フリッド、ミンディー・セル

出版補佐：ナンシー・サットン

編集委員：ギャレット・H・ガフ、チャケル・ワードレイ、ハーバート、マイケル・R・モリス、リチャード・M・ロムニー、R・ウッド

編集インターン：ジョリン・D・ブラウン、ジェイミー・ルシュウル

アートディレクター：タッド・R・ピーターソン

デザイナー：フェイ・P・アンドラス、デビッド・グリーン、コリーン・ピンクレー、エリック・P・ジョンセン、スコット・M・ムーイ

デザインインターン：メーガン・バーナム

版權および許諾コーディネーター：プリシラ・ビール・モッタ

制作主幹：アンモン・ハリス

制作：アイラ・グレン・アデア、ジュリー・バーデット、ホセ・チャベス、ゼーン

R・グレイII、ブライアン・W・ギューギ、ミッシェル・ブロクター、マリッサ・M・スミス、ローン・ソロモン

印刷ディレクター：スティーブン・T・ルイス

配送ディレクター：ネルソン・ゴンザレス

日本語版翻訳課長：大森陽子

●定期購読は、末日聖徒イエス・キリスト教会公式オンラインストアにてお申込みください。https://store.churchofjesuschrist.org/jpn.ja 発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会 〒106-0047 東京都港区南麻布5-8-8

価格：年間購読（国内）「リアホナ」1,090円、「フレ

『わたしに従ってきなさい』

40 イエスの奇跡

起き上がらせる力

ボニー・H・コードン会長

生活の中で奇跡を求めるとき、わたしたちを起き上がらせることができになる救い主の力に頼ることができます。

44 マタイ 8, 10, 12, 14 章; ルカ 7 章

新約聖書の研究をサポートする簡潔な記事。

48 ユダヤ人の埋葬の慣習

ラザロの死と埋葬の際に行われたと思われる慣習の幾つかを紹介します。

ヤングアダルト

30 恐ろしい不確かな未来に向き合うための助言

バイアンニナ・シカヒマ長老

わたしは父が期待していたプロボクサーにはなりませんでしたが、恐れと向き合うことについて幾つかの事柄を学びました。

34 わたしの世界が暗かったとき、わたしはキリストに頼りました

マリア・セレステ・ラミレス・メンドーサ

打ちのめされるような知らせを受けた後、わたしはキリストに心を向けるか、キリストから離れるかを選ばなければなりませんでした。

30

『リアホナ』の新しい記事をもっと

毎月、ほかにも多くの『リアホナ』の記事を、liahona.ChurchofJesusChrist.org または「福音ライブラリー」アプリで御覧いただけます。『わたしに従ってきなさい』や、シングルアダルト、子育て、信仰をもって人生の困難に対処することなど、様々なテーマに関する会員のストーリーや洞察が順番に掲載されます。

YA ウィークリー

「福音ライブラリー」の「機関誌」または「成人」の「ヤングアダルト」にある YA ウィークリーで、ヤングアダルトのための記事をもっと読むことができます。



つながる

機関誌の各号は liahona.ChurchofJesusChrist.org で御覧ください。そのページにあるリンクから、質問、意見、経験を分かち合ってください。

liahona@ChurchofJesusChrist.org まで電子メールでお送りいただくか、以下に郵送してください。
Liahona, floor 23
50 E. North Temple Street
Salt Lake City, UT
84150-0023, USA

ンド) 870 円。[For the Strength of Youth — 青少年の強さのために] 870 円 (すべて送料込み) 海外在住の方はお近くのディスクリプションセンターへのお申込みをお勧めします。

郵送先住所: Liahona, Fl. 23, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0023, USA.

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。アルバニア語、アルメニア語、ビスマラ語、ブルガリア語、カンボジア語、セブアノ語、中国語、中国語(簡体字)、クロアチア語、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、英語、エストニア語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語、ハンガリー語、アイスランド語、インドネシア語、イタリア語、日本語、キリバス語、韓国語、ラトビア語、リトアニア語、マダガスカル語、マーシャル語、モンゴル語、ルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ルーマニア語、ロシア語、サモア語、スロベニア

語、スペイン語、スワヒリ語、スウェーデン語、タガログ語、タヒチ語、タイ語、トンガ語、ウクライナ語、ウルドゥー語、ベトナム語 (発行頻度は言語により異なります)。

© 2023 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷: 韓国

著作権情報: 別途記載がない限り、「リアホナ」に掲載されているものは、個人的に、また非営利目的(教会の召しもんを含む)で使用する場合に複製することができます。この権利は取り消される可能性が常にあります。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合には複製できません。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Fl. 5, Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メールで cor-intellectualproperty@ChurchofJesusChrist.org にお問い合わせください。

For Readers in the United States and Canada: March 2023 Vol. 47 No. 3. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1090-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription

price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below.

Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at store.ChurchofJesusChrist.org. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 5071.5.2). NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.

「わたしの平安を
あなたがたに与える」



あの嵐の夜にガリラヤの海に向かって告げたのと同じ言葉を、イエスはわたしたちが人生の嵐の中にあるときに言われます。「静まれ、黙れ。」



十二使徒定員会
ディーター・F・
ウクトドルフ
長老

わたしたち家族にとって、1944年の寒い冬は恐れと不安に包まれた時期でした。父は遠い西部戦線におり、チェコスロバキアの我が家に戦争が迫る中、母は4人の子供たちに食べ物と暖かい部屋を与えようと必死に努力していました。

日々、危険は近づいていました。やがて母は、ドイツ東部の両親の家に避難することを決めました。母のおかげで、わたしたちはどうにか、全員で西へ向かう最後の難民列車に乗ることができました。すぐ近くで起こる爆発音、心配そうな顔、空っぽの胃袋が、列車のすべての乗客たちに、自分たちが戦場を通過していることを思い知らせました。

ある夜、列車が補給のために停車したところで、母は大急ぎで食料を探しに出かけました。母が戻って来たとき、何と子供たちを乗せた列車はいなくなっていました！

心配にかられた母は、すがるような思いで神に祈った後、暗い駅構内を必死で探し始めました。線路から線路へ、列車から列車へと走りました。もし見つける前に列車が発発してしまえば、子供たちには二度と会えないかもしれないことを、母は知っていました。

人生における嵐

救い主が現世での務めを行っておられた間、主の弟子たちは、主がわたしたちの人生の嵐を静めることができになることを学びました。ある晩、海辺で一日中教を説いた後、主は弟子たちにガリラヤの海の「向こう岸へ渡ろう」と言われました（マルコ4：35）。

出発した後、イエスは舟の上で休む場所を見つけて眠りに就かれました。じきに空が暗くなり、「激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうにな〔り〕」（マルコ4：37-38）しました。

舟が沈まないよう、弟子たちがどれほどの時間努力を続けたのかは分かりませんが、やがて彼らは音を上げました。パニックに陥り、こう叫んだのです。「先生、わたしどもがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか。」（マルコ4：38）

わたしたちは皆、突然の嵐に直面します。苦難と試練に満ちた現世において、苦悩し、落胆し、失望を感じることもあるでしょう。自分のために、また愛する人たちのためにつらい思いをします。心配し、恐れ、時には希望を失います。そんなとき、わたしたちもまたこう叫ぶかもしれません。「先生、わたしがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか。」

わたしが若いころに大好きだった賛美歌の一つに、「主よ、嵐すさび」があります。¹「波いと高し」とされる海で舟に乗っている自分の姿を思い描くことができました。この賛美歌のきわめて重要でとりわけ美しい箇

所にはこうあります。「風も波も み旨に従え。」そして、「この船は沈め得ず、天地の主がいますを」という大切なメッセージが述べられます。

平和の君であられるイエス・キリストをわたしたちの舟に迎え入れるなら、わたしたちは恐れる必要はありません。自分の心の中や周囲で渦巻く嵐のまっただ中であって、平安を見いだすことができるのを知るでしょう。弟子たちが助けを叫び求めた後、イエスが「起きあがって風をしかり、海にむかって、『静まれ、黙れ』と言われると、風はやんで、大なぎに」(マルコ4:39) になりました。

あの嵐の夜にガリラヤの海に向かって告げたのと同じ言葉を、イエスはわたしたちが人生の嵐の中にあるときに言われます。「静まれ、黙れ。」

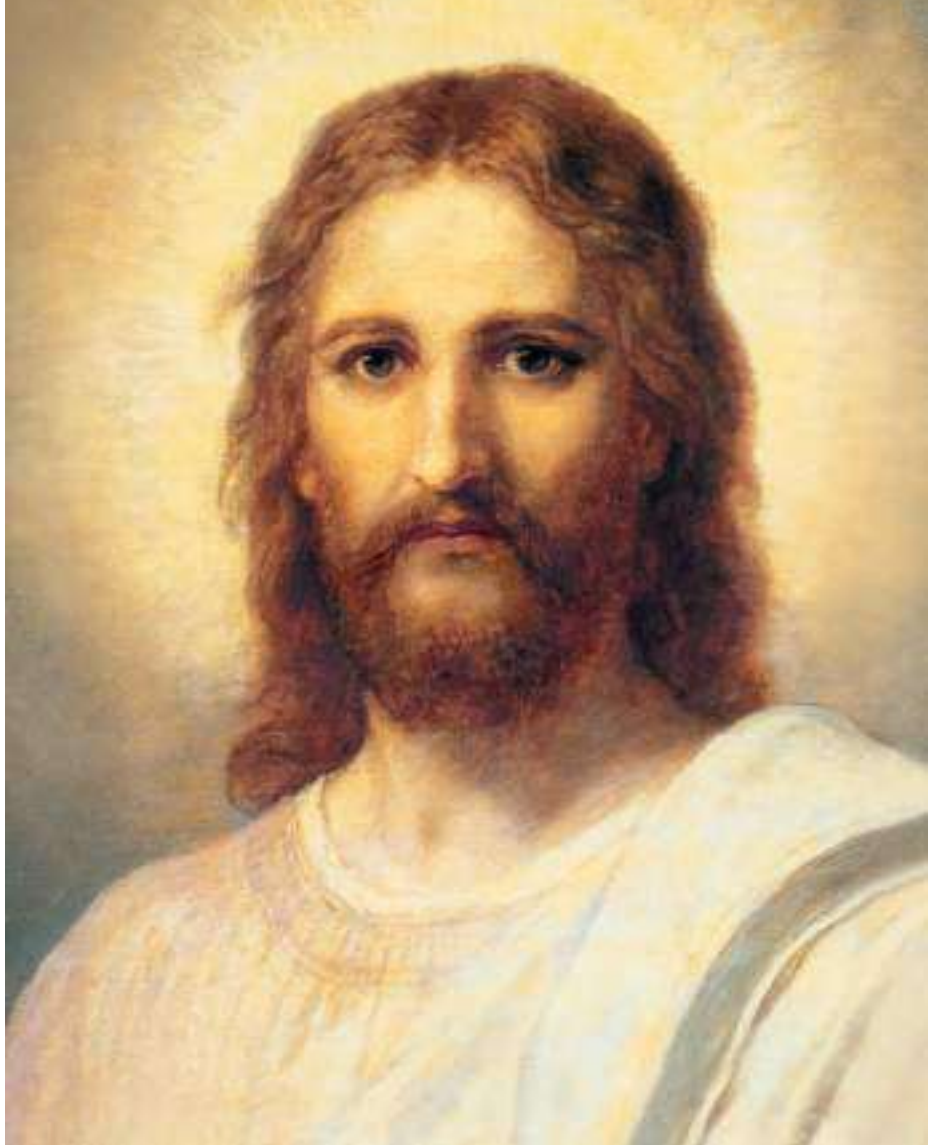
「世が与えるようなものとは異なる」

弟子たちのように、わたしたちもこう尋ねなくなるかもしれません。「いったい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは。」(マルコ4:41)

イエスはほかのだれとも異なる御方です。神の御子として、主はほかのだれにも成し遂げることのできない使命を果たすように召されました。

主の贖罪を通して、またわたしたちが十分に理解できない方法で、救い主は「あらゆる苦痛と苦難と試練」(アルマ7:11)を、そして「全人類の罪の重荷」²を御自身に受けられました。

主は正義に対して何の負債も負っていませんでしたが、「正義の……要求するすべて」(アルマ34:16)に耐えられました。十二使徒定員会会長であったボイド・K・パッカー会長(1924-2015年)はこう言っています。「〔主は〕何一つ間違いを犯されませんでした。にもかかわらず、人に知られている罪悪



もしわたしたちが主に頼るならば、主の生涯と教えは、主の平安を感じる道を与えてくれます。

感、嘆きと悲しみ、苦痛、また屈辱のすべて、さらに知的、情緒的、肉体的苦痛のすべてを合わせて、救い主はそのすべてを経験されたのです。」³そして主は、それらのすべてに打ち勝たれました。

アルマは次のように預言しました。「〔救い主〕は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。」(アルマ7:12)

強烈な苦しみによってもたらされる神聖な贈り物を通して、またわたしたちへの愛のゆえに、イエス・キリストはわたしたちを贖い、強くし、救うための代価を払ってくださいました。贖罪によってのみ、わたしたちはこの世において心から欲し、必要としている平安を見いだすことができるのです。救い主は次のように約束しておられます。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27)

平安への道

自然の力を制御しておられるイエス・キリストは、わたしたちの重荷を軽くすることもおできになります。主は個人と諸国民を癒す力を持っておられます。主は真の平安への道を示してくださっています。主は「平和の君」(イザヤ9:6)であられるからです。救い主が与えてくださる平安は、もし神の子供たちがそれを許すならば、人類の存在のすべてを変えることができます。もしわたしたちが主に頼るならば、主の生涯と教えは、主の平安を感じる道を与えてくれます。

主は次のように言うておられます。「わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。」(教義と聖約19:23)

わたしたちが主に学ぶのは、祈りによって心を高め、主の生涯と教えを研究し、神殿を含む「聖なる場所に立[つ]」(教義と聖約87:8。45:32も参照)ときです。できるだけ頻繁に主の宮に参入してください。神殿は、激しさを増していく現代の嵐からの平安に満ちた避け所です。

わたしの愛する友であるトーマス・S・モンソン大管長(1927-2018年)は次のように教えました。「聖なる神殿に行くとき、そこで交わす聖約を思い起こすとき、わたしたちはあらゆる試練に耐え、それぞれの誘惑を克服することができるでしょう。神殿はわたしたちの人生に目的を与えてくれます。それはわたしたちの心に平安をもたらします。その平安は、人から与えられる平安ではなく、神の御子が約束してくださった平安です。」⁴

わたしたちが主の言葉を聴くのは、聖文と生ける預言者の言葉にある主の教えを心に留め、主の模範に倣い、主の教会に来てフェローシップを受け、教えを受け、神の善い言葉によって養われるときです。

わたしたちが主の御霊の柔和な道を歩むのは、主が愛されたように愛し、主が赦されたよう

に赦し、悔い改め、家庭を主の御霊を感じられる場所にするときです。また、人々を助け、喜んで神に仕え、「キリストに穏やかに従[う者]」(モロナイ7:3)になるよう努めるときにも、わたしたちは主の御霊の柔和な道を歩みます。

これらの信仰と行いの取り組みは義へと続き、弟子としての旅路においてわたしたちを祝福し、永続する平安と目的をもたらします。

「わたしにあって平安を得る」

陰鬱な鉄道駅にいた何十年も前の暗い夜、母はある選択に直面しました。座ったまま子供を失った悲劇を嘆くこともできましたし、信仰と希望を行いに移すこともできました。母の信仰が恐怖に打ち勝ち、希望が絶望に打ち勝ったことに、わたしは感謝しています。

やがて、駅構内の離れた場所で、母はわたしたちの列車を見つけました。ようやくわたしたちは再会できたのです。その晩、そしてその後やって来た嵐の吹き荒れる幾多の日々の間、信仰を行いに移した母の模範は、わたしたちがより明るい未来を望み、そこへ向かって努力する中での支えとなりました。

今日、神の子供たちの多くが、同じように、自分の列車が動かされてしまったことを目の当たりにしています。そのような人たちの将来に対する希望と夢は、戦争やパンデミックによって、そして健康、雇用、教育の機会、愛する人々を失ったことによって、運び去られてしまいました。彼らは落胆し、孤独で、失望を感じています。

兄弟姉妹、愛する友人の皆さん、わたしたちは苦難の時代に生きています。諸国民は混乱し、地上に裁きがあり、平和が地から取り去られています(教義と聖約1:35;88:79参照)。しかし、たとえわたしたちが苦しみ、悲しみ、主を待たなければならないとしても、わたしたちの心から平安が取り去られなければならないということはありません。

イエス・キリストとその贖いのおかげで、わたしたちの祈りはこたえられるでしょう。時期は神が決められることですが、わたしたちが悔い改めという神の賜物を用いて、そして忠実であり続けるならば、義にかなった望みがいつの日か実現し、失ったすべてのものが補われることを証します。⁵

わたしたちは肉体的にも霊的にも癒されるでしょう。

裁きの法廷に、清く、聖なる状態で立つでしょう。

栄光ある復活において、愛する人々と再び一緒になるでしょう。

それまでの間、「あなたがた……は、わたしにあって平安を得る」(ヨハネ16:33)という救い主の約束を信頼して、慰めと励ましを受けることができますように。■

注

- 1.「主よ、嵐すさび」『賛美歌』59番
- 2.ニール・A・マックスウェル「喜んで服従する」『聖徒の道』1985年7月号, 73
- 3.ボイド・K・バックナー「救い主の私心のない神聖な犠牲」『リアホナ』2015年4月号, 38参照
- 4.トーマス・S・モンソン「神殿の祝福」『リアホナ』2010年10月号, 15
- 5.『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』51参照



わたしたちの神聖な本質が 帰属意識と自分が どのような者になるかに 及ぼす影響



七十人
ジョン・C・
ピングリー・
ジュニア長老

神との関係とイエス・キリストの弟子としての務めを優先するとき、わたしたちは自分の神聖な本質に喜びを見いだし、永続する帰属意識を得て、最終的に自らの神聖な可能性に到達するでしょう。

アメリカ心理学会は帰属意識を、「あるグループに受け入れられ、承認されているという感情」¹と定義しています。

残念ながら、だれもが帰属意識を感じているわけではなく、時にわたしたちは受け入れてもらうために自分を変えようとする場合があります。「わたしたちは皆、溶け込みたいと思っています」と、イギリスの精神科医ジョアンナ・キャンロンは言います。「それを達成するために、人はしばしば環境や周囲にいる仲間に応じて、微妙に異なった自分を提示します。たくさんの『バージョン』の自分があるかもしれませんが。仕事用、家庭用、さらにはオンライン用といった具合です。」²

ここで気をつけたいのは、溶け込むことと帰属意識を感じることに違いがあるということです。アメリカ人研究者で著述家のブレネー・ブラウンは次のように述べています。「溶け

込むことと帰属意識を感じることは同じではありません。実のところ、溶け込むことは帰属意識を感じるうえでの最大の障壁の一つです。溶け込むというのは、状況を見極めて、受け入れられるために自分になる必要のある者になることです。一方、帰属意識を持つために、自分が何者であるかを変える必要はありません。必要なのは、ありのままの自分であることです。」³

自分の神聖な本質を知ることは、有意義な帰属意識を感じるうえで不可欠です。さもなければ、わたしたちは自分の持つ永遠の性質を尊重してくれない場所で何とか受け入れられようとして、自分を適応させることに時間と努力を費やすことになります。さらに、どこに帰属するかを選択は、グループの規範や標準に従おうとする中で、わたしたちの価値観や行動に変化をもたらすことがあります。どこに帰属するかを選択は、わたしたちがどのよう

な者になるかに徐々に影響を及ぼしていきます。

つまり、自分の神聖な本質を受け入れることは、わたしたちがどこに帰属することを望むかに影響を与え、わたしたちが帰属することを選んだ場所は、最終的に自分がどのような者になるかにつながっていくのです。

神聖な本質

わたしたちは皆、前世で神とともに住んでいました(教義と聖約 93:29; 138:55 - 56 参照)。わたしたちは男性や女性として神の形に創造されました(創世 1:27 参照)。神はわたしたちが御自分のようになるための計画を用意されました(教義と聖約 132:19 - 20, 23 - 24 参照)。神の幸福の計画にはわたしたちが地上にやってくるが含まれていて、その目的は、わたしたちが肉体を得、知識を身につけ、最終的に天の家に帰り、永遠の喜

わたしたちが神とその御子、そして御二方に従う人々との
深い帰属意識がもたらす愛と一致と強さを感じるとき、
神は喜ばれます。

びのうちに神とともに住むことです(2 ニューファイ 2 章:9 章; アブラハム 3:26 参照)。神は次のことを明らかにしておられます。「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」(モーセ 1:39) 信じ難いことですが、わたしたちこそが神の業であり、栄光なのです! このことは、わたしたちが神にとって計り知れないほど大切であり、価値があることを物語っています。

とき、「御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかして下さる。もし子であれば、相続人でもある。神の相続人……なのである。」(ローマ 8:16 - 17)

現世における違い

前世で、わたしたちは神とともに歩み、神の声を聞き、神の愛を感じていました。その後、わたしたちは忘却の幕を通して現世にやって来ました。わたしたちはもう以前の生活を完全に思い出すことはありません。この現世の環境の状況が、自分の神聖な特質や、天の家で享受していた帰属意識



地上には何十億もの人がいることを考えると、神がわたしたち一人一人を心にかけておられるというのは受け入れ難いと思う人もいるかもしれません。わたしは証します。神はわたしたち一人一人を御存じであり、わたしたちが何を行っているか、どこにいるか、さらには「その心の思いと志」(アルマ 18:32) さえも御存じです。わたしたちは神によって「数えられている」(モーセ 1:35) だけでなく、神に完全に愛されています(1 ニューファイ 11:17 参照)。

天の御父はわたしたちを完全に愛しておられるので、御自分が持っておられるすべてをわたしたちに分かち合いたいと望んでおられます(教義と聖約 84:38 参照)。何といても、わたしたちは神の娘や息子なのです。神はわたしたちが御自分のようになり、御自分が行っていることを行い、御自分が得ている喜びを経験することを望んでおられます。わたしたちがこの真理に対して心と思いを開く

を感じるのを、より難しくしています。

例えば、遺伝的な違いや環境の違いにばかり目を向けていると、それが神とのつながりの妨げとなる可能性があります。サタンはそうした違いを利用して、わたしたちの共通の親である神からわたしたちの注意をそらそうとします。わたしたちは人からレッテルを貼られ、時にはそれこそが自分だと思い込むこともあります。この世的な特徴に基づいて人に親近感を持つことには、本質的に何の問題もありません。実際、わたしたちの多くは、同じような特性や経験を持つ人々から喜びや支えを得ています。しかし、神の子供であるという自分の核となる本質を忘れてしまうと、自分とは異なる人に対して、恐れや不信感や優越感を抱き始める可能性があります。そうした態度はしばしば、分裂、差別、さらには滅亡につながります(モーセ 7:32 - 33, 36 参照)。

自分の神聖な受け継ぎを覚えているとき、わたしたちの多様性は人生に美しさと豊かさをもたらします。わたしたちは互いの違いを超えて、自分たちを兄弟姉妹と見なします。互いに尊重し合い、学び合うようになります。人々が帰属できる協力的な場所を提供するよう努めます。相手の特徴や経験が自分たちのものとは異なる場合には特にそうです。神が様々な種類の創造物を造ってくださったことに感謝します。⁴

遺伝的な性質や環境は、わたしたちの現世での経験に影響を与えます

が、わたしたちを定義づけるものではありません。わたしたちは、神のようになる可能性を秘めている、神の子供です。

イエス・キリストを通して帰属する

わたしたちが現世で大きな困難に直面することを御存じであった神は、わたしたちがこれらの障害に打ち勝てるよう助けるために、その御子イエス・キリストを備え、遣わしてくださいました。キリストは、わたしたちが前世で持っていた神との親密な関係を再び築けるよう、助けを与えてくださいます。キリストは次のように説明しておられます。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」(ヨハネ 14:6。ヨハネ 3:16 - 17 も参照)

キリストは常に進んでわたしたちを助けてくださいます。わたしたちは主に属するものであり(1コリント 6:20 参照)、主はわたしたちが御自分のもとに来ることを切に望んでおられます。救い主は御自身の言葉でこう約束しておられます。「十分に固い決意をもってわたしのもとに来なさい。そうすれば、わたしはあなたを受け入れよう。」(3ニーファイ 12:24)

では、どのようにしたら十分に固い決意をもってキリストのもとに行くことができるのでしょうか。

第1に、キリストを自分の救い主、贖い主として受け入れます。神の偉大さと、自らの迷い墮落した状態、そして救いを得るために自分がイエス・キリストに完全に頼っている状態であることを認めます。自分が主の御名によって知られることを望み(モーサヤ 5:7-8 参照)、「残りの全生涯」(モーサヤ 5:5)において主の弟子となることを願います。

第2に、神と神聖な聖約を交わし、聖約を守ることによって、十分に固



天の力

「回復された主の教会で執行される救いと昇栄の儀式は、儀礼や象徴的な所作をはるかに超えたものです。むしろ、各個人の生活に天の祝福と力が流れ

込むことのできる、認可された経路となるのです。」

十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー長老「いつも罪の赦しを保つ」「リアホナ」2016年5月号、59 - 60



い決意をもってキリストのもとに行きます(イザヤ 55:3 参照)。聖約は、神権の権能によって執行されるイエス・キリストの福音の救いと昇栄の儀式を通して交わされます。

聖約を交わして守ることは、わたしたちを神とその御子に結びつけるだけでなく、わたしたちを互いに結びつけてくれます。数年前、わたしは家族と一緒にコスタリカを訪れ、地元の教会の聖餐会に出席しました。教会堂に入ると、数人の会員が温かく歓迎してくれました。集会の間、わたしたちは小さな会衆とともに聖餐の賛美歌を歌いました。祭司たちが聖餐の準備をするのを見守り、彼らがささげる聖餐の祈りに耳を傾けました。パンと水が配られたとき、わたしはその場にいた、聖約を守る仲間の一人一人に対する神の愛に圧倒されました。その集会以前には会ったことのない人たちでしたが、わたしは彼らとの一体感と親近感を感じました。わたしたちは皆、神と同じ約束を交わし、それを守ろうと努めていたからです。

神と神聖な聖約を交わし、聖約を守ろうと努力



主はさらに皆さんのことを気にかけておられます

「主は皆さんが自分のことを考えているよりも、さらに皆さんのことを気にかけておられます。……主を愛し、主の

戒めを守るときに、想像を超える結果、大いなる報いが皆さんのものとなるでしょう。」

ラッセル・M・ネルソン、末日聖徒イエス・キリスト教会大管長、Accomplishing the Impossible: What God Does, What We Can Do (2015), 147.

神の業に携わるとき、わたしたちは単にグループに属するメンバーの一人になるわけではありません。そうではなく、神とその御子イエス・キリストと真のパートナーになるのです。

従う人々との深い帰属意識がもたらす愛と一致と強さを感じる時、神は喜ばれます。しかし、神はわたしたちに対してそれよりもはるかに大きな計画を持っておられます。神はわたしたちを、ありのままの自分で来るように招いておられますが、神のほんとうの望みは、わたしたちが神のようになることです。

聖約を交わして守ることは、わたしたちが神とキリストに属するための助けとなるだけでなく、わたしたちが御二方のような力を持つことを可能にしてくれます（教義と聖約 84：19 - 22 参照）。わたしたちが福音の救いと昇栄の儀式に関連する聖約を守るとき、わたしたちの生活に神の力が流れ込んできます。聖約の道は、神の見習いプログラムのようなものと見なすことができます。神と聖約を交わし、聖約を守るとき、わたしたちは神

するとき、わたしたちは地上の、または世俗のどのようなグループに属することで得られるものよりも大きな帰属意識を経験するようになります。⁵ わたしたちは「もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族」（エペソ 2：19）なのです。

わたしたちの中には、現世で置かれている状況のために、この世の生涯においてすべての儀式を受け、すべての聖約を交わす機会を得られない人もいますでしょう。⁶ そのような場合、神はわたしたちに、自分たちに用意されている聖約を交わし、守るために「自分の行えることをすべて」（2 ニーフай 25：23）行うよう求められます。そして、次の世において残りの儀式と聖約をすべて受ける機会を与えてくださると約束しておられます（教義と聖約 138：54, 58 参照）。神は御自分の子供たちに用意しているあらゆる祝福を、わたしたちが受けられるようにしてくださるのです（モーサヤ 2：41 参照）。

天の御父とイエス・キリストのような者になる

わたしたちが神とその御子、そして御二方に



のように考え、行動し、愛する練習をしているのです。神の助けと力を受けて、わたしたちは少しずつ神のようになっていくことができるのです。

神は、わたしたちが神とその御子とともに、「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」（モーセ 1：39）業に参加することを切に望んでおられます。神はわたしたち一人一人に、この地上での時間、霊的な賜物、そしてそれらの人々への奉仕に使う選択の自由を与えておられます。わたしたちは神の息子や娘であり、神はわたしたちがなすべき重要な業を備えておられます（モーセ 1：4, 6 参照）。

神の業にあって効果的に働くためには、周りに目を向けて、神を第一とし、しばしば自分よりもほかの人の必要を優先することを学ぶ必要があります。周りに目を向けることには、個人的な犠牲が求められますが（教義と聖約



138:12 – 13 参照), 同時にそれはわたしたちの生活にさらなる意義を注ぎ込み, 大きな喜びを与えてくれます (アルマ 36:24 – 26 参照)。

神の業に携わるとき, わたしたちは単にグループに属するメンバーの一人になるわけではありません。そうではなく, 神とその御子イエス・キリストと真のパートナーになるのです。ほかの人々に永遠の命をもたらすために, わたしたちを通して業を行うほどに神が信頼してくださっていると知ること, これ以上にすばらしい気持ちはありません。

3つの招き

最後に, 3つの招きをします。以下の招きは, わたしたちが自分の本質と帰属意識に喜びを見だし, それらを絶えず実感し, 自らの神聖な可能性に到達するための助けとなるでしょう。

1. 神の娘や息子としての自分の神聖な本質を優先しましょう。つまり, 自分は神と親子関係にあるということに自らの価値の礎を置きましょう。祈りと聖文研究, 安息日の遵守と神殿での礼拝, そして生活の中に聖なる御霊を招き, 神とのつながりを強めるそのほかの活動を通して, 神との関係を築くように努めましょう。生活の中で神に勝利を得ていただきましょう。⁷

2. イエス・キリストを救い主として受け入れ, 主の弟子としての務めをほかの事柄よりも大切にしましょう。つまり, 主の御名を受けて, 主に従う者として知られたいと望みましょう。日々, 主の赦しと主の力にあずかろうと努めましょう。聖約を交わし, 聖約を守りましょう。主のようになろうと努力しましょう。

3. 人々がキリストのもとに来て永遠の命を得られるように助けることによって, 神の業に携わりましょう。つまり, ほかの人たちが自らの神聖な本質を理解し, 帰属意識を感じられるように助けましょう。イエス・キリストとその福音に見いだしている喜びを率直に分ち合いましょう (アルマ 36:23 – 25 参照)。ほかの人たちが神と神聖な聖約を交わし, 聖約を守るのを助けるよう努めましょう。だれに祝福をもたらせるか, またどうすればそうできるかを知るために, 神の導きを求めましょう。

神との関係とイエス・キリストの弟子としての務めを優先するとき, わたしたちは自分の神聖な本質に喜びを見だし, 永続する帰属意識を得て, 最終的に自らの神聖な可能性に到達することができるかと約束します。■

2022年5月25日にブリガム・ヤング大学ハワイ校で行われたディポーショナルでの説教, “Divine Identity, Becoming, and Belonging” (「神聖な本質, どのような者になるか, 帰属意識」) から。

注

1. APA Dictionary of Psychology, s.v. “belonging,” dictionary.apa.org.
 2. Joanna Cannon, “We All Want to Fit In,” *Psychology Today* (blog), July 13, 2016, psychologytoday.com.
 3. Brené Brown, *Daring Greatly: How the Courage to Be Vulnerable Transforms the Way We Live, Love, Parent, and Lead* (2015), 231–32.
 4. モルモン書には, 人々が多様でありながらも神にあって一つとなっていた時代についての記述があります (4 ニーファイ 1:15 – 17 参照)。この人々は自分たちの神聖な受け継ぎを覚え, 何よりも主に忠誠を尽くし, 遺伝的や環境的な違いにもかかわらず, ほかの人たちと一つとなって愛をもって暮らしました。

5. 主の聖なる宮も, 平等で聖約による帰属意識を感じられる環境を作り出します。神殿でのわたしたちの経験に関して, 以下について考えてください: すべての人は, 神殿推薦状を受ける準備をし, 資格を得よう招かれています。わたしたちは皆, 神の前における全体としての清さと平等を示す白い衣服を着ます。わたしたちは互いを兄弟や姉妹と呼び, この世での公的な称号は使いません。すべての人に同じ学ぶ機会が提供されます。すべての人に同じ聖約と儀式が与えられ, 同じ永遠の祝福を受ける機会があります。
 6. これまでにこの地上で生を受けた1.170億人 (see Toshiko Kaneda and Carl Haub, “How Many People Have Ever Lived on Earth?,” Population Reference Bureau, May 18, 2021, prb.org/articles/how-many-people-have-ever-lived-on-earth) の中で, 福音のすべての救いと昇栄の儀式にあずかった人は相対的に見て少数です。その結果として, 神の子供たちの大部分は, これらの儀式を霊界で受ける必要があります。
 7. ラッセル・M・ネルソン「神に勝利を」『リアホナ』2020年11月号, 92 – 95 参照



ポーランドのワルシャワのアグニエシュカ・マズロウスカ(右)は、ワードの人たちとともに、ウクライナ難民に食料と衛生キットを提供する支援を行っています。また、難民がポーランド語を学んだり、仕事を見つけたりする手助けもしています。

キリストの 模範に従う： 助けを必要とする人々への支援

食糧生産から緊急時の対応、ミニスタリングまで、隣人に愛を示す方法はたくさんあります。

福祉・自立サービス
ケリー・クリステンセン

イエス・キリストに従う者として、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、神を愛し、隣人を愛するという、二つの大切な戒めに従って生活しようと努めています（マタイ 22：37 - 39 参照）。この二つの大切な戒めと、イエス・キリストの模範に従うことは、教会とその会員が助けを必要としている人々を支援する際の指針です。

では、教会は実際のところ、助けを必要としている人々をどのように支援しているのでしょうか。そして、会員はこの大いなる業にどのように参加できるのでしょうか。

支援の方法

教会員として、わたしたちは助けを必要としている人々を見だし、人種や国籍や宗教にかかわらず、神のすべての子供たちを助けようと努めています。

助けを必要としている人々を支援する方法は様々で、次のようなものがあります：

- 断食と断食献金の活用
- 互いへのミニスタリング
- 自立プログラム
- 世界規模の食糧、教育、清潔な水、医療を提供するプログラム
- 緊急支援
- 地域社会でのボランティアプロジェクト

教会の人道支援活動の中には大規模なものもありますが、小さな取り組みであっても全体として大きな影響を及ぼすことができます。助け

を必要としている人々を教会員がどのように支援しているか、幾つかの例を紹介しましょう。

戦いの中でのミニスタリング

ポーランドのワルシャワに住む教会員のラエアン・ヤルビスとステルリング・ヤルビスは、難民を自宅に迎えようとしたとき、どんなことが起こるのか見当もつきませんでした。それでも二人は、助けるためにできることは何でも喜んで行うつもりでした。

ヨーロッパで戦いが始まって間もないある日の午前1時、ウクライナ人の5人家族がヤルビス家に到着しました。安全な場所を探して、約500マイル（800キロ）を旅して来たのです。ヤルビス夫妻は、マリナ・ボウト、セルフイ・ボウト夫妻と3人の子供たちを自宅に迎え入れました。時がたつうちに、ヤルビス夫妻の心にはボウト家族に対する真の愛と関心が育まれていきました。「愛は分かち合うときに育っていきます。」ヤルビス夫妻の奉仕の模範について、マリナはそう言います。「愛は人と人とを近づけ、人を主に近づけるのです。」

教会員として、わたしたちは周りの人々にミニスタリングを行うことによって救い主の模範に従う



ハワイ州ライエ穀物農場は複数の区画に分けられ、人々がザボンなどの果物や野菜を育てています。新型コロナウイルス感染症のパンデミックの間、これらの食物は特に地域住民の助けになりました。

よう努めます。助けを必要としているのは、戦争や迫害から逃れて来る人ばかりではありません。どんなに小さくても、すべての親切な行いは、だれかの人生に良い影響を及ぼします。

分かち合うコミュニティ

教会所有のハワイ州ライエ穀物農場では、310以上の家族が自分たちの世帯を支えるために作物を育てています。約0.5ヘクタールごとの区画で、彼らはタロイモ、タピオカノキ、サツマイモ、パンノキ、グアバといった島の作物を育てています。

農場は一組の夫婦宣教師によって管理され、ほかの宣教師たちや会員たちも支援しています。これらのボランティアたちは、土地を開墾し、植え付けに備えて土を作り、基本的な農業技術を教えるのを助けています。

彼らのような宣教師、会員、ボランティアのおかげで、ハワイで食糧を必要としている多くの人々が、仕事が少ない時期でもある程度自活ができるようになっていきます。人々が協力して農場の手入れをし、作物を分かち合うとき、地域社会は強くなります。

教会の人道支援プロジェクトは、世界中の何百万もの人々に、食糧の確保、教育、清潔な水、医療サービスを提供する一助となっています。教会はまた、ビショップの倉、雇用センター、デゼレト産業の店舗、ファミリーサービスのカウンセリング、自立コース、ハワイ州ライエ穀物農場のような教会所有の農場や果樹園など、自立を促進するための多くのリソースを提供しています。これらのプロジェクトには、多くの場合、会員や宣教師が協力しており、それぞれが献身的に時間や才能やそのほかのリソースを提供することで、困っている人たちに大きな変化をもたらしています。

友情の行い

2021年には、約200人の教会員が支援の呼びかけに応じました。彼らはドイツやアメリカ合衆国などにあるセンターに赴き、アフガニスタンからの難民約5万5,000人の手続きを手伝いました。

多くのボランティアがそれらのセンターで2、3週間にわたって奉仕し、それ以上長く続けた人もいました。教会員は、避難して来た人々に食べ物や衣服、そのほかの物資を提供して、当座の必要を満たせるようにしました。

ドイツの扶助協会の姉妹たちが目を留めたのは、アフガニスタンの女性の中に、夫のシャツを頭に被っている人たちがいることでした。彼女たちは空港での混乱の中で、伝統的なイスラム教徒の被り物がなくなったり、破けたりしてしまったのでした。扶助協会の姉妹たちは集まって、

困っている女性たちのために伝統的なイスラム教徒の衣服を縫いました。信仰の違いを脇に置いて、ほかの人々に対する優しさと敬意を示したのです。

末日聖徒チャリティーズのディレクターであるシャロン・ユバンク姉妹はこう言っています。「わたしたち一人一人の取り組みが必ずしも金銭や遠方に行くことを必要とするわけではありません。聖なる御霊の導きと、主に向かって、『ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください』〔イザヤ6:8〕と進んで言える心が求められています。』¹

災害が起こったときに奉仕をしたいという願いのゆえに、教会はしばしば、一時的な救援と長期的な支援の両方において、いち早く反応する団体の一つとなっています。教会員と宣教師の働きは、助けを必要としている人々が安全を感じ、身体的や精神的なケアを受け、人々の思いやりを通して神の愛を感じる助けとなっています。

業に召されている

教義と聖約第4章3節にはこうあります。「あなたがたは神に仕えたいと望むならば、その業に召されている。」教会が行うすべてのことにおいて、奉仕する方法はたくさんあります。

困っている人を助けるための教会による組織的な取り組みの多くは、宣教師と会員の奉仕があってこそ成り立つものです。すべての人が難民の家族を受け入れたり、ほかの人の物理的な必要を満たしたり、災害時にすべてを投げ出して助けたりできるわけではありません。それでも、すべての人に果たす役割があり、すべての人の貢献は大切なものとして尊重されます。

会員がこの業のために何かをささげる最も重要な方法の一つは、断食献金と人道支援への献金です。これらの神聖な献金は、最も助けを必要としている人々を支援するために使われ、助けを受けた人々の生活に大きな影響を与えます。



末日聖徒イエス・キリスト教会の 人道支援の取り組み

- 2021年、188か国で3,909件の人道支援プロジェクトを実施
- 2021年の人道支援での支出額は9億600万ドル
- 2021年には680万時間のボランティア活動を提供
- 2021年には174万人に影響を及ぼす清潔な水と衛生のためのプロジェクトを実施
- JustServe.orgを通して4万1,000件のボランティアプロジェクトを完了
- 2021年には8,000万ポンド(約3万6,000トン)分の食糧を寄付
- 北アメリカおよび南アメリカで129のビショップの倉が稼働
- 30か国、17の言語で依存症立ち直りプログラムを開催
- 世界中で約1万5,000の自立グループが、職探し、教育の向上、家計管理などを支援

教会員は人道支援宣教師として奉仕したり、自立コースの進行役を務めたり、ビショップの倉やデゼルト産業の店舗でボランティアとして働いたりすることができます。また、地元での奉仕や、献血、ミニスタリングの割り当て、祈り、そのほか様々な方法によって、助けを必要としている人々を支援することもできます。

わたしたちは皆、その業に召されています。イエス・キリストの模範に従い、神を愛し、隣人を愛するように召されているのです。必要なのは、進んで行う心だけです。■

注

1. シャロン・ユーバンク「主がわたしたちを使ってくださいよう祈ります」『リアホナ』2021年11月号、55



2022年2月より、ポーランドの末日聖徒たちは難民のために移動や食糧や避難所の支援を行いました。



We'll do more for you!





南アフリカ, ヨハネスブルグ

1852年、末日聖徒イエス・キリスト教会の最初の宣教師が南アフリカに到着しました。それ以来、会員たちは人種や文化の壁を乗り越えて一致と友情を築いてきました。南アフリカにおける教会の現状は次のとおりです：



会員数 約6万9,400



ステーク 17, ワード・支部 195, 伝道部 4



神殿 2 (ヨハネスブルグとダーバン), 建設が発表されている神殿 1 (ケープタウン)

福音により祝福されて
きょうだいの孫娘のトユート(左)と、めいのリジー・モホディサ(右)に抱きつかれながら、ディミカツォ・ラマイサ(中央)は、ともに福音に従って生活することにより3世代が祝福を受けていると言います。



南アフリカにおける
教会についてさらに知る

左—写真/Getty Images

右—写真/バハマ・トウソン

希望と信仰をもって ミニスタリングを行う

信仰をもって聖約を守るとき、わたしたちはほかの人たちを希望の源に導くのを助けることができます。

救い主がされたようにミニスタリングを行う方法を学ぶとき、わたしたちはさらに救い主のようになることができます。新約聖書に記されているキリストとその弟子たちの模範を学ぶことで、キリストのような特質を伸ばす方法を知ることができ、それらの特質は救い主のようなミニスタリングを行えるよう努力するうえで助けとなります。

希望と信仰の模範

マルコによる福音書には、「十二年間も長血をわずらっている女」についての感動的な話が記されています。その女性は「多くの医者にかかって、さんざん苦しめられ、その持ち物をみな費してしまいましたが、なんのかいもないばかりか、かえってますます悪くなる一方」(マルコ5:25-26)でした。

12年間も苦しむというのはとても長い期間です。すべてを費やすというのはたいそうな苦勞です。しかも女性の体調は悪化するばかりでした。もう希望はないと思っても仕方がない人がいるとすれば、それはこの女性でした。

それでも「この女〔は〕イエスのこと

を聞いて、群衆の中にまぎれ込み、うしろから、み衣にさわ〔り〕」しました。「み衣にでもさわれば、なおしていただけるだろう」と信じていたからです。

マルコはこう記しています。彼女の信仰のゆえに「血の元がすぐにかわき、女は病気がなおったことを、その身に感じた。」(マルコ5:27-29)

イエスを信じるこの女性の希望と信仰は、祝福をもってこたえられました。「イエスはその女に言われた、『娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。すっきりなおって、達者でいなさい。』」(マルコ5:34)

その大きさや期間の長さにかかわらず、どんな課題に直面しているときでも、希望は切実に必要とされます。恐れと絶望は時にわたしたちをまひさせます。それでも、イエス・キリストを信じる希望と信仰は、わたしたちの生活に主の力と祝福をもたらしてくれます。

ミニスタリングにおいて希望と信仰を实践する

ミニスタリングブラザーやシスターとして、わたしたちはそうした希望と信仰を呼び起こす必要のある時が訪れます。ミニスタリングには、やりがいも伴えば、困難が伴うこともあります。助けたいと思う相手がそれを望んでいないように見えるとき、希望を失いそうになることがあるでしょう。もしかするとあなたは今まさに、家族や友人、または現在助けるよう割り当てを受けている人について、そのような状況に直面しているかもしれません。もしかすると、長血を患っていた女性のように、何か助けになるものを見つけるためにあなたがどれだけの時間と労力を費やしてきたか、主のほかにはだれも知らないかもしれません。しかしあの女性のように、信仰をもって手を差し伸べ続ける希望を見いだすなら、救い主の力が変化をもたらしてくれます。

時として課題となるのは、信仰を働かせるのに十分な希望を感じられずに苦しんでいる人たちにミニスタリングをすることです。マルコによる福音書の女性のように、慢性疾患や経済的な損害、あるいは幾つもの圧倒されるほどの試練に直面している人もいます。そのような人たちにとって、苦しみの中であって自分は一人ではないと知ることは強力な希望の源になります。わたしたちが進んで彼らの重荷を負い、ともに悲しみ、慰め、神の証人になりたいと思っていることを示すとき、彼らがこの希望を見いだすのを助けることができます(モーサヤ18:9-10参照)。¹





希望と信仰を育む

希望と信仰というキリストのような特質をどうすれば身につけられるでしょうか。幾つかアイデアを紹介しましょう：

1. 十二使徒定員会のディーター・F・ウークトドルフ長老は、希望とはイエス・キリストがあなたへの約束を果たしてくださると信頼することであると教えています。²「希望は御霊の賜物〔モロナイ 8：26 参照〕³なので、わたしたちが祈り求めることができるものです（教義と聖約 46：7－9 参照）。
2. ラッセル・M・ネルソン大管長は、信仰を増し加えるには努力が

必要であると教えています。研究し、信じることを選び、信仰をもって行動し、ふさわしい状態で神聖な儀式に参加し、天の御父に助けを求めることによって、わたしたちがどのように信仰を増し加えることができるかを、大管長は分かち合っています。⁴ ■

注

1. ジェフリー・R・ホランド「互いに重荷を負い合う」『リアホナ』2018年6月号、26－28 参照
2. ディーター・F・ウークトドルフ「希望という無限の力」『リアホナ』2008年11月号、22 参照
3. ディーター・F・ウークトドルフ「希望という無限の力」21
4. ラッセル・M・ネルソン「キリストはよみがえられた—キリストを信じる信仰は山を動かす」『リアホナ』2021年5月号、103 参照

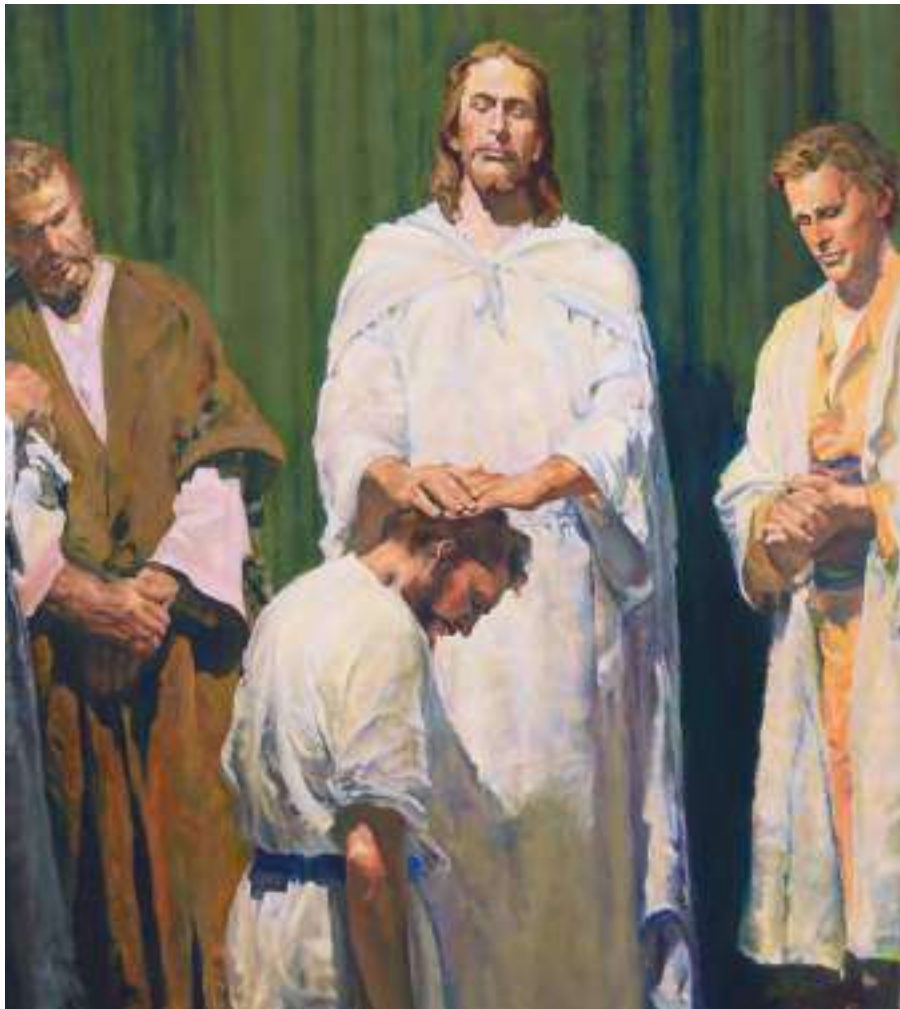
さらに知るために

ウークトドルフ長老の説教「希望という無限の力」（『リアホナ』2008年11月号、21－24）から、希望についてさらに学びましょう。

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老から、信仰と希望の関係についてさらに学びましょう（「信仰によって学ぶ望みを持つ」『リアホナ』2007年9月号、16－24）。



神権の祝福



神権

神権とは神の力と権能です。メルキゼデク神権を持つふさわしい男性は、神権の祝福を授けるとき、イエス・キリストの御名によって行います。これらの祝福を授けるとき、神権者は人々に祝福を授けられた救い主の模範に従います。

神 権の祝福は、メルキゼデク神権者によって靈感を通して授けられます。神権の祝福は、神のすべての子供たちが、神の力、癒し、慰め、導きを受けることを可能にします。

さらに詳しく知る

祝福師の祝福について質問があれば、ミニスタリングブラザーやシスター、ワードまたは支部の指導者、あるいは宣教師と話をするとよいでしょう。神権の祝福の執行について、詳しくは ChurchofJesusChrist.org にある『総合手引き—末日聖徒イエス・キリスト教会における奉仕』の第18章を参照してください。



祝福はどのように授けられるか

神権の祝福は按手によって授けられます。一人のメルキゼデク神権者が、祝福を受ける人の頭の上に両手を置きます。そして、御霊の導きのままに祝福を授けます。祝福を授ける人と祝福を受ける人は、神を信じる信仰を働かせて、神の御心と時期を信頼します。



子供の命名と祝福

子供が生まれた後、一人の神権者が子供に名前と祝福を授けます（教義と聖約 20：70 参照）。これは通常、**断食証会**で行われます。まず子供に名前が授けられます。次に、神権者がその子に祝福を授けます。



病人への祝福

メルキゼデク神権者は、病気の人に祝福を授けることができます。この祝福には二つの部分があります。この祝福には二つの部分があります。まず、**油注ぎ**と、油注ぎの結び固めです。まず、一人の神権者が聖別された、つまり祝福されたオリーブ油を一滴、祝福を受ける人の頭に垂らし、短い祈りをささげます。次に、もう一人の神権者が油注ぎを結び固め、聖霊の導きに従って祝福を授けます。

聖文から

イエス・キリストは按手によって病人を祝福されました（ルカ 4：40 参照）。

教会で奉仕する会員は、適切な権能を持つ人によって任命されます（教義と聖約 42：11；信仰箇条 1：5 参照）。

病気の人には神権者に祝福を求めることができます（ヤコブの手紙 5：14；教義と聖約 42：44 参照）。



慰めと助言を与える祝福

メルキゼデク神権者は、自分の家族や祝福を求めの人に、慰めと助言を与える祝福を授けることができます。メルキゼデク神権を持つ父親は、子供に父親の祝福を授けることができます。これは、子供が特別な問題に直面しているとき、特に助けとなるでしょう。



召しを受けて奉仕する会員の任命

教会員は召しを受けると、奉仕するように任命されるときに祝福を受けます。一人の神権指導者が、召しにおいて行動する権能をその会員に授けます。神権指導者はまた、その会員が奉仕するのを助けるために祝福を授けます。



祝福師の祝福

ふさわしい会員はだれでも祝福師の祝福を受けることができます。この祝福では、主からの個人的な勧告が与えられます。祝福師の祝福は、生涯を通じて導きと慰めを与えてくれます。また、祝福ではイスラエルの家におけるその人の血統が告げられます。この祝福を受けることができるのは、聖任された**祝福師**だけです。■

覚えておくとよい言葉



断食証会：会衆が証を述べる聖餐会。会員はその日、飲食をせずに断食をします。通常は月の第1日曜日に行われます。



油注ぎ：病人への神権の祝福の一部として、聖別された油を注ぐこと。



祝福師：ステーク内の教会員に祝福師の祝福を授けるように聖任された神権者。



あなたはずっと知っていました

ホセ・G・フランコ (アメリカ合衆国, ユタ州)

回復された福音についての証を受けたとき、わたしは別の教会の聖職者でした。自分とイエス・キリストとの関係を強める時が来たのを知っていたわたしは、聖職者の職を離れてバプテスマを受ける準備をしました。今日、わたしは専任のセミナー教師として働く特権にあずかっています。

ストーリーの続き



総大会から得た助けと希望

ベッティナ・モンニ（イタリア、ローマ）

総大会の一つの説教がまるごと、自分が今まさに経験していることについて採り上げてくれるとは思ってもみませんでした。

最初の子供が生まれた後、わたしは産後うつに苦しみました。息子が生まれ、人生のすばらしい時期だったにもかかわらず、わたしはうつがひどく、赤ちゃんを授かった喜びを十分に味わうことができませんでした。

このつらい時期の間、わたしは天の御父にたくさん祈りました。この困難な試練を乗り越えるのを助けていただけよう、主に願い求めました。また、その年の秋の総大会が近づいていたので、教会の指導者たちの話から慰めを見いだせるように祈りました。

総大会の第一部会に耳を傾けていると、わたしは少しずつ慰めを感じ始めました。そして第二部会では、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が、うつ病について話をしま

した。うつ病になると、時に自分が「破れた器のように」¹（詩篇 31：12）感じるがあると、ホランド長老は言いました。一つの説教がまるごと、自分が今まさに経験していることについて取り上げてくれるとは思ってもみませんでした。

わたしにとって特別なひとときでした。その説教を通して、天の御父がわたしを愛してくださっていて、わたしについて御存じであることを理解することができました。御父はわたしがどんなことを経験しているのかを理解しておられたのです。わたしを助け、希望を与えたいと望んでくださっていて、それをホランド長老の言葉を通して実現してくださったのです。■

注

1. ジェフリー・R・ホランド「破れた器のように」『リアホナ』2013年11月号、40





上から見た眺め

ミラ・レイ・アセベド・カラスコ (ニュージーランド, マールボロ)

目標に到達するためにまさに必要だったものを、わたしはもう少しで投げ捨ててしまうところでした。

最近、わたしはニュージーランド南島の美しい山地にある有名なロイズピークにハイキングに行きました。数時間のハイキングなので、わたしは必要なものだけを、つまり軽食とたっぷりの水を持って行きました。

歩き始めた時点で、リュックはすでに重たく感じられました。30分ほど歩くと、肩と背中にリュックがさらに重くのしかかってきました。一瞬、水を少し捨てようかという思いがよぎりました。しかしすぐに、水は必要だと思い直しました。

山頂まであと1時間半というところで、道は険しくなり、雪に覆われ始めました。頂上にはたどり着けないかもしれないという考えがよぎりましたが、心に決めた目標が、歩き続けるよう後押ししてくれました。

ようやく頂上にたどり着いたころには、リュックはかなり軽くなっていまし

た。すでに軽食を食べ、水の大半を飲んでいました。体を休め、上からの美しい眺めに感謝の念を抱きながら、わたしは山頂までの、そして人生の旅路について思いを巡らせました。

何時間もかけて上り坂を歩きながら、わたしは栄養と水分を体に与えることで、歩き続けるための力を得ました。初めは重荷に思われたもの、すなわち命を救う水が、目標に到達できるようにわたしを祝福してくれました。

わたしたちは皆、上り坂や下り坂を経験しますが、聖霊はわたしたちが良い決断をするのを助けてくださいます。わたしはもう少しで半リットル以上の水を途中で置いていきそうになりましたが、持っていくべきだという強い印象を感じました。

目をうるませながら、わたしはどのように振り返れたことを天の御父に

感謝しました。あの日、雪に覆われた山の中で、わたしは自分の人生と、数々の決断と、目標と、個人的に背負っているものについて深く考えるよう促されました。

ハイキングに行く前、わたしの心は自分の生活や外国での仕事に対する不安でいっぱいでした。でも今は、すべてがうまくいくだろうと感じています。主がわたしに気を配ってくださると分かっているからです。

御霊がともにあるとき、わたしは自分を精神的、肉体的、霊的に高められる正しい決断ができると思っています。そして、荷物を重く感じる時には、「生ける水」(ヨハネ4:10)の源であられる救い主に頼ることができます。主がわたしを養い、わたしの荷を軽くしてくださることを知っています(マタイ11:28-30参照)。■

鐘楼が思い出させるもの

デビッド・ペイン (アメリカ合衆国, メリーランド州)

もしわたしが促しに応じていたなら、ジュゼッペに福音を教える時間がもっとあったことでしょう。

ある準備の日、宣教師のわたしは同僚と一緒にイタリアのパルマにある大聖堂を訪れていました。美しい絵に感嘆していると、近くで一人の修道士が本を読んでいるのに気づきました。わたしはその修道士にモルモン書について話すよう促しを受けたのですが、恐れを抱きました。

大聖堂の中で宣教師が伝道活動を行うことに、カトリックの修道士はどんな反応を示すでしょうか。再び促しを感じましたが、わたしは再び退けました。

数週間後、同じアパートにいたほかの二人の長老から、街頭伝道をしていたときにジュゼッペという名の修道士と話をしたと聞きました。レッスンをした後、その修道士はモルモン書を受け取ったとのことでした。

1週間後、その宣教師たちがジュゼッペと会ったとき、彼はすでにモルモン書の大半を読んでいた。そしてその内容にとっても興奮していました。

その宣教師たちが再びジュゼッペに会う前に、わたしの同僚が転勤になったため、わたしは彼らと行動を共にすることになりました。ジュゼッペを教えるために大聖堂に行き、彼がわたしが以前話をするよう促しを受けた同じ修道士であることが分かって、わたしは驚きませんでした。

ジュゼッペはわたしたちに、今はアルマ書を読んでいると言い、アルマを使徒パウロと比べました。わたしたちは彼に2番目

のレッスンを行うことにしました。そのレッスンでは最後にバプテスマを受けるよう招くことになります。レッスンの最後に、バプテスマを受けることによってイエス・キリストの模範に従うようジュゼッペを招こうとしたちょうどそのとき、大聖堂の鐘が鳴り出し、わたしたちを驚かせました。

ジュゼッペはすっかり時間を忘れていて、正午の祈りのためにほかの修道士に合流しなくてはならないと言いました。そして、これから修道士の黙想に行くので、今後はもう会えないと思うと言って謝りました。その後、彼は司祭に任じられることになります。

わたしたちは、その重要な瞬間がたった今、泡と消えてしまったことに衝撃を受けました。もしわたしが以前の促しに応じていたなら、ジュゼッペを教える時間がもっとあったでしょうし、彼はモルモン書を読み終える時間があつたでしょう。わたしの知るかぎり、宣教師が彼を教えることは二度とありませんでした。

その経験をして以来、時計台の鐘の音は、わたしたちの時間がいかに貴くて短いかを思い出させるものとなりました。伝道の残りの期間、鐘楼の音を聞く度に、話しかけられる人にはだれにでも福音について話そうという気持ちが湧いてきました。そして今日も、御霊の促しに従うよう努めています。■





すべてうまく いきますよ

アレハンドロ・パラダ (ウルグアイ, カネローネス)

その時間は果てしなく続くように思え、やがて外科医の一人が、待合室にいる母のところにやって来ました。

19 80年代の初め、重い心臓疾患を患っていた父が心臓の手術を受け、わたしたち家族はこれで父の寿命が延びることを願っていました。

当時、担当の外科医たちが用いた革新的な処置は、ウルグアイでは目新しいものでした。大動脈弁を人工弁に置き換えるというものです。やがてその処置は一般的なものとなり、これまでに数え切れないほどの命を救ってきました。

父の手術にはこの新しい外科処置が含まれていたため、数人の心臓専門医が立ち合い、手術を見守りました。外科医が施術をしている間、母は不安な気持ちで待合室に座っていました。その時間は果てしなく続くように思えました。

手術が成功に終わったと分かったとき、わたしたちは喜びに包まれました。手術室から出て来た外科医の一人が、ほかの外科医から離れて待合室にやって来ました。手術を監督するためにウルグアイに来ていた客員外科医でした。

その医師は母に近づき、立ち止まって、安心させるように母の肩に手を触れました。そして母の目を見ながらこう言いました。「すべてうまくいきますよ。」



その外科医の言ったとおりでした。父はそれから24年間生き、生涯の最後の日まで、健康になった心臓とともに心を尽くして主に仕えました。

教会の最近の総大会の間、母はもう何年も前の、あの特別な訪れを思い起こしていました。実際、あの客員外科医であったラッセル・M・ネルソン大管長が聖徒たちに語る度に、母はあのときのことを思い起こすのです。

主の預言者たちは皆、何らかの形でわたしたちにとって特別な存在です。自分が若いときに教会の大管長だったために特別な存在である人もいます。自分がバプテスマを受けたときに大管長だったために特別な存在である人もいます。母とわたしにとって、ネルソン大管長が特別なのは、あらゆる重大な医療処置が患者だけでなく、患者の愛する人たちにも影響を及ぼすことを、大管長は知っているからです。愛する人の健康や命が危機に瀕しているとき、家族には励ましや強さ、安心を与えてくれる言葉が必要であることを、大管長は知っています。

わたしたちは遠い昔にウルグアイでネルソン大管長がかけてくれた安心を与える言葉と、天の御父と天の御父の子供たちに仕えるネルソン大管長の生涯に、これからもずっと感謝し続けるでしょう。■



七十人
バイアンニナ・シカヒマ長老

恐ろしい不確かな 未来に向き合うための助言

私生活においても
職業人生においても、
わたしはこれまで
多くの不安に直面し、
それを乗り越えるのを
天の御父がどのように
助けてくださるかを
学んできました。

わたしは若いころに家族でトンガからアメリカ合衆国に移住しました。トンガに住んでいたころ、父はボクサーで、合衆国に来てから、わたしにボクシングのトレーニングをし始めました。父の希望は、わたしがいつかヘビー級の世界チャンピオンになることでした。父はわたしに、恐れてはいけないと教えてくれました。成功を望むなら、ボクシングのリングの上で恐れてはだめだと。父は当時、教会に活発だったとは言えないかもしれませんが、困難に立ち向かうことや、恐れを前にして勇気を持つことについて、わたしに多くのことを教えてくれました。

ボクシングを学ぶことは、わたしの将来の職業人生に向けて、ほかでは得られない特別な備えとなりました。わたしはアメリカンフットボール奨学金でブリガム・ヤング大学 (BYU) に通いました。そして、ほとんどの人がフットボールのフィールドで行われる最も怖いプレーだと思うパントのキャッチでさえ、わたしはいつも冷静にこなしました。あまり怖いと思ったことはありませんでした。実際のところ、わたしはフットボールで直面するチャレンジが大好きだったので。

父はわたしがプロスポーツの道を歩んでいくことを期待していましたが、種目はボクシングではなく、アメリカンフットボールになりました。

それでも、わたしが受けたトレーニングは、信仰を持つことと、不確かな状況の中で信仰と希望をもって前を見据えることの両方において、助けとなってくれたと思います。

ヤングアダルトとして、皆さんは幾つもの難しくても恐ろしいこと、すなわち、教育、職業、結婚、家族についての決断といった、個人的な問題に直面します。それに加えて、経済危機、社会的な誘惑、政治的混乱、さらには戦争など、より広範な問題にも直面します。しかし、わたしは自分自身の人生での経験から、生活の中で主を第一にすることを選ぶとき、主は常にそばにいて、そのすべてにおいてわたしたちを導いてくださることを知っています。

良い友人と善良な人々の影響力

伝道から帰って来たとき、わたしは幸運にも良い友人たちに恵まれました。宣教師訓練センターで出会ったある友人が、後にわたしの妻になる女性を紹介してくれました。人生の成否は友人によって決まることが多いという事実を、わたしは決して軽んじたことはありません。友人やメンターはあなたが決断をするのを助けてくれますが、その決断はあなたを神に近づけるものかもしれませんし、神から遠ざけるものかもしれません。

ナショナルフットボールリーグ (NFL) にいた



左上から：若いバイ・シカヒマが父親とスパリングするときに使ったものを象徴するボクシンググローブ；家族と一緒にニュージーランド・ハミルトン神殿の前に立つバイと、プリガム・ヤング大学でフットボールをするバイ（と、フィールドで息子のタッチダウンを喜ぶ父親）。下：BYU ハワイ校でのディボーションの後、学生とポーズを取る地域七十人のシカヒマ長老。

とき、わたしはギフォード・ニールセンを尊敬していました。わたしと同じようにBYUでプレーした後にNFLに行き、やがてスポーツキャスターとなった人で、後に中央幹部七十人になっています。ある日、ゴルフ場で偶然会ったのですが、ニールセン兄弟からもらった助言が、わたしのプロとして歩む道を変えました。

二人だけでゴルフカートに腰掛けていたときです。わたしはアメリカンフットボール選手としての生活を終えたら、あなたと同じようにテレビの仕事をするつもりだと話しました。するとニールセン兄弟は、日曜日の試合に行かなければならないような仕事を続けるのはやめるよう助言をしてくれました。この助言に従えば、わたしはいつでも日曜日に召しを受けて教会で奉仕することができます。

それは実にシンプルであり、わたしが考えたこともなかった助言でした。そしてその助言は、わたしの人生を変えてくれました。

自分が信じるものために立ち上がる

NFLでのわたしのキャリアのほとんどは、恐ろしくて不確かなものでした。大学のアメリカンフットボール選手のうちにNFLに入れるのはわずか2パーセントであり、たとえチームに入れたとしても、いつ切られるか分かりません。わたしがあれだけ長く生き残れたのは大きな祝福でしたが、万が一の支えがない生活は容易ではありません。信仰がたくさん必要でした。

NFLでは、選手は年ごとに所属チームが変わり、全米を飛び回ります。一見華やかに見えますが、ほとんどの人はあまり華やかでない部分を見ることはありません。NFLの選手としての生活

左から右へ：デートの日、そして結婚式の日のパイと妻のケアラ。シカヒマ家族の家族写真。人生のあらゆる不確かな状況を通じて、シカヒマ長老は救い主イエス・キリストと、生ける預言者と使徒たちから受ける強さと導きに絶えず頼ってきました。

は大変です。夫婦にとっても生活は容易ではありません。プロスポーツ選手の離婚率が高い理由の一つはそこにあります。

助けとなったのは、自分がどこに立っているかを知っていたことです。わたしにはキリストを基とする堅固な土台があって、わたしは自分をキリストと天の御父の近くにとどめてくれるあらゆることを一貫して行いました。

皆さんの職業ではこれほど激しいプレッシャーや誘惑に直面することはないかもしれませんが、わたしの場合、プロスポーツ選手であることによって、以前とは大きく異なるライフスタイルに身を置くことになりました。例えば、最初のころ、大都市に着くと、チームメートたちはすぐにでも外出して、福音の標準に沿わない様々な活動をしたがりました。わたしはそのとき、シオンとバビロンの両方にまたがって立つことはできないことを悟りました。せかす彼らを静めるために、「ちょっと考えさせて」と答えることはできませんでした。そうではなく、わたしは確固として信仰を持ち、なぜ彼らに加わることはできないのかを説明する必要がありました。

恵まれて、わたしは大学在学中に結婚しました。NFLに行ったときには、妻と6か月の赤ん坊がいました。わたしたちは神殿で結婚していて、わたしはその聖約が自分にとってどのような意味を持ち、自分が何を求められているかを知っていました。ですからチームメートに、「いいえ、わたしはそれはしません」と言いました。そしてさらに強く誘われると、こう言いました。「妻とわたしは主の宮で結婚し、そこで神聖な聖約を交わしたんです。それらの聖約は、わたしにとって何よりも大切なものなんです。」

そして不思議なことに、わたしにそうした質問をして、わたしがどのような人物であるかがはっきり分かると、その同じチームメートたちが、それ以降はわたしを守り、わたしの標準と聖約を尊重してくれるようになったのです。自分が信じ、大切にしているもののために立ち上がるには勇気が要ります。



初めはとて多くの誘惑に立ち向かうのを恐ろしく思いましたが、天の御父に頼り、プレッシャーの中で聖約の神聖さと意味を思い起こすことはいつでも、自分の職業において聖約の道を確認として歩む助けになりました。皆さんも自分の旅路において、どのような状況にあっても、同じことが行えます。

預言者に従う

今日のヤングアダルトとして、皆さんが将来について大きな不安や恐れを抱いていることを知っています。どうすればよいのだろう、どのように乗り越えればよいのだろうと思っているかもしれません。シンプルな答えは、預言者ラッセル・M・ネルソン大管長の導きに従うことです。神の預言者が語り、何か具体的なことを告げるとき、とにかくただその助言に従えばよいのです。

わたしが見たところ、ネルソン大管長はよく、わたしたちが確固として信仰を守るためにできることの簡単なリストを提示してくれます。この数年の間に、大管長は教会員に向けて、信仰を増し加えるために行うべき5つのこと、霊的推進力を増すための5つの方法、新しい一年を始めるに当たって行うべき3つのこと、そのほかにも様々なリストを与えてきました。

ネルソン大管長は、たくさんの事柄が並んだリストを与えることはしません。簡単なことだけに限っています。そして、もしそうした簡単なことを行い、そして固い決意を持つならば、皆さんの人生は最も簡単なことを行うことによって変わってでしょう。皆さんの信仰の土台は、たとえ世の中に恐ろしい状況があるときでも、堅固なものであることでしょ。それらのことを行えば大丈夫です。皆さんは守られます。

旧約聖書に出てくる、重い皮膚病を患っていた軍勢の長ナアマンの話が思い出されます。ナアマンが預言者エリシャのもとへ行くと、エリシャはナアマンに、ヨルダン川で7度身を洗うように言

いました。ナアマンはばかばかしいと思いましたが、周りの人たちは、とにかく行ってそのように行うよう、軍勢の長であるナアマンを励ました。ナアマンには、行ってそのとても簡単なことを行うだけの信仰がありました。そしてナアマンは清められました。(列王下5:1-15 参照)

自分の将来を天の御父の御手に委ねる

さて、わたしはプロボクサーにはならなかったかもしれませんが、恐れと向き合うことについて幾つかのことを学びました。皆さんがヤングアダルトとして現在直面しているあらゆる決断や課題に対して、どうかあらゆる手段を尽くして御霊の影響を求め、常に受けられるようにしてください。それが鍵です。ネルソン大管長は最近、こう教えました。「霊的推進力は、パンデミックや津波、火山の噴火、武装した敵対行為によって生じる恐怖と不安のさなかで、わたしたちを前進させ続けるでしょう。霊的推進力は、サタンの容赦ない邪悪な攻撃に耐え、わたしたち個人の霊的な基盤を損なおうとする彼の努力を打ち砕くのに役立ちます。」¹

今よりも若く、移民として見知らぬ国に移住するという現実直面していたころのわたしには、不安のない人生を想像することはできませんでした。わたしは人生と職業を通じて不安に直面し続けてきた中で、わたしたちはキリストの弟子として、その道にどんな恐れや障害があろうとも、それに立ち向かえることを学びました。

善良な人々と交わり、自分の信じていることを貫き、預言者に従うときに、将来はそれほど恐ろしく思えないことでしょ。そして、恐れや不安があったとしても、信仰をもって前進することができるでしょう。愛にあふれた天の御父の御手に自分の将来を委ねるとき、御父がいつもそばにいてくださると信頼することができるのです。■

注

1. ラッセル・M・ネルソン「霊的推進力」『リアホナ』2022年5月号、98



わたしの世界が暗かったとき、 わたしはキリストに頼りました



マリア・セレステ・ラミス・メンドーサ

最 近の総大会のメッセージの中で、大管長会第二顧問のヘンリー・B・アイリング管長は、この世界における苦難の時代について次のように述べています。「使徒パウロはテモテへこう書きました。『しかし、このことは知っておかねばならない。終りの時には、苦難の時代が来る。』（2テモテ3：1）

……ですから、イエス・キリストの福音に従って生活するために
交わり、守るべき聖約を尊ぶことが、容易になることはなく、むし

ろさらに難しくなるでしょう。』¹

この言葉を聞いたとき、わたしは不安になりました。ベネズエラに住むわたしは、自分の家庭の中ですでに様々な困難に対処していました。ですからそのとき、わたしの心の中には、「世界がとても暗いときに、どうすれば楽観的でいられるのだろう」、「こんなに暗い現在に、どうすれば明るい未来を待ち望めるのだろう」といった疑問がありました。

でもアイリング管長は解決策を示してくれました。アイリング管長は、わたしたちの基を「キリストである贖い主の岩の上に」築く

周囲であまりにも
たくさんの暗い
ことが起こっていた
ので、キリストに
土台を築くとは
どういう意味なのか、
わたしにはよく
分かりませんでした。

ことについて述べているヒラマン書第5章12節を引用しました。

わたしはこの聖句が真実であることはずっと信じていましたが、救い主の上に基を築くというのは、言うのは簡単ですが行うのは難しいように思っていました。それでも、自分がキリストに近づくにつれて、主を信じる信仰が確固としているとき、すべてのことがその人の益となるように働くことが分かってきました(教義と聖約90:24参照)。

見捨てられたように感じる

数か月前、打ちのめされるような知らせが家族から届きました。目の前で自分の世界が崩れていくような気がしました。頭がぼんやりとして、混乱し、ひどく不安になり、体調を崩さえました。

忠実になろうと努力しているときになぜこんな試練に直面するのか理解できませんでした。自分は何か間違ったことをしたのだろうかと考えました。未来は暗く見え、わたしは天の御父とイエス・キリストに見捨てられたと感じました。

苦難のさなか、わたしは親しい友人と話をしました。彼が言ったことを、わたしは決して忘れないでしょう。「この状況はあなたにとって、自分と主との個人的な関係について深く考える良い機会じゃないかな。どんなことが起こっても、主に頼って助けを求めるかどうかはあなた次第なわけで、もし主に頼るなら、主はあなたが今必要としている愛と安らぎをきっと与えてくださるよ。」

その言葉が、わたしの観点を変えてくれました。わたしは自分の状況に腹を立て、傷つき、混乱していましたが、それでもわたしは選ぶことができました。わたしたちがどんな経験をしていても、どんな恐れを抱いていても、どんな困難に直面していても、イエス・キリストはいつもそばにいてくださいます。苦難の中にあって、主から離れるのではなく、信仰をもって主に心を向けるという選択肢があります。

それこそが、主を信じる信仰の土台を強め、この世の苦難に耐える方法なのです。主を選ぶのです。

十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老はこう教えています。「この精錬する者の火の中にあるとき、神に怒りを抱くのではなく、神に近づいてください。御子の御名によって、御父を呼び求めてください。御霊によって日々御二方とともに歩んでください。時を経て現される、御二方のあなたへの献身を待って

いてください。真に神を知り、真に自分自身を知ってください。」²

キリストはわたしが頼って助けを求めるのを待っておられました。それによっ

て、主がわたしの人生や家族が抱えているすべての問題を直ちに解決してくださるわけではありませんが、主はわたしがより良い人になり、喜びを見いだし、より精錬されるのを助けてくださいました。

そして徐々に、祈りや聖文研究や信仰を通して救い主を求める中で、一部の問題はまだ解決していなくても、主はわたしが家族を赦し、再び生活に喜びを招き入れるのを助けてくださったのです。

約束された安全

今は確かに苦難に満ちた終わりの時です。戦争と戦争のうわさ、パンデミック、自然災害について聞いていますが、この先、さらに厳しい時代が来るに違いありません。しかし、イエス・キリストという岩の上に築き、主を信頼することは、わたしたちがどんなことに直面していようと、常に平安と喜びを与えてくれます。アイリング管長はまたこうも教えています。「自分自身や自分の愛する人たちについて心配している人々にとって、これから来る嵐の中で安全な場所が用意されるという神の約束に希望を見いだすことができます。」³

何と力強く美しい約束でしょうか。そしてわたしは、その約束が自分の人生の中で成就するのを見てきました。これがイエス・キリストの回復された福音であり、また主があらゆる祝福の源泉であることを知っています。主は光であり、わたしたちの救い主であられて、わたしたちは主の羊です。主を選び、信仰を選びましょう。■

筆者はベネズエラ、ズリア州在住です。

注

- 1.ヘンリー・B・アイリング「嵐の中で確固としている」『リアホナ』2022年5月号、27
- 2.D・トッド・クリストファーソン「わたしたちと神との関係」『リアホナ』2022年5月号、79
- 3.ヘンリー・B・アイリング「嵐の中で確固としている」27-28

親のために

主の力と 預言者を 信頼する



親愛なる親の皆さん、

混沌を深める現在の世の中では、恐れや不安を感じやすいものです。しかし、わたしたちが慰めを求めてイエス・キリストに頼るとき、主は人生の嵐の中でわたしたちに平安をもたらしてくれます。今月号の記事を読み、困難を乗り越えるのを救い主がどのように助けてくださるかを見いだしてください。

福音についての話し合い

困難な時代にあって救い主はすぐに平安を与えてくださる

家族と一緒に、4ページにあるウークトドルフ長老の記事を読み、キリストがお持ちの人に能力を授ける力を信頼することが、困難な状況においてどのように平安をもたらしてくれるかを学びましょう。イエスが安らぎを与えてくださる方法について話し合いましょう。生活に主の力を招き入れるために、どのようなことができますか。

神権はどのように家族を祝福してくれるか

神権の祝福について、22ページの記事を読んでください。家族に、神権の祝福を受けたときの経験を分かち合ってもらいましょう。どのような気持ちがしましたか。その祝福はどのような助けとなりましたか。今、家族のどれかの助けとなる祝福はあるでしょうか。

主は預言者を使ってわたしたちが勇気を育むのを助けてくださる

30ページの記事では、シカヒマ長老が、預言者の教えに従うことがプロのアメリカンフットボール選手として、また生涯を通じて、自分の信条と標準に確固として立つうえでどのような助けとなったかを語っています。この記事を読んだ後、家族一人一人に、預言者に従うことが勇気を持つ助けとなったときの経験を分かち合ってもらおうとよいでしょう。

『わたしに従ってきなさい』を 家族で楽しく

日々成長していく

イエス・キリストの回復された教会の会員として、わたしたちには地上における神の王国の発展を助ける責任があります。マタイ 13:31 - 32 にはこうあります。

「天国は、一粒のからし種のようなものである。ある人がそれをとって畑にまくと、

それはどんな種よりも小さいが、成長すると、野菜の中でいちばん大きくなり、……木になる。」

1. 輪になって座り、体を小さなからし種のように小さく丸めます。
2. 皆で順番に、教会が成長するのを助けるために自分たちに日々できる活動を挙げていきます（証を述べる、ソーシャルメディアで聖句を分かち合う、友人に福音の真理を分かち合う、など）。
3. だれかが教会の成長を助ける活動を挙げる度に、全員が姿勢を少しずつ起こして立ち上がっていき、まっすぐに立つまでこれを続けます。
4. 教会の成長に貢献するために各自がそれぞれの役割を果たすことが大切なのはなぜか、家族と話し合ってください。

提供：ブレンダ・スレード

『For the Strength of Youth—青少年の強 さのために』から

総大会ノート

総大会に備えるために、そして総大会の説教からより多くのものを得るために、このリソースを活用してください。

人生の嵐の中での平安

救い主がどのようにわたしたちの人生における嵐を静め、平安をもたらしてくださるかを、ワークドルフ長老が教えます。

伝道に出るための準備

伝道に出る準備をする青少年のために、焦点を当てるべき重要な事柄を紹介します。

救い主はどのように女性を大切にされたか

救い主が女性に優しさと敬意を示すことにおいてどのように雄々しくあられたかを見て、主の模範に従えるようになります。



『フレンド』から

バプテスマの準備をする

今月号の『フレンド』から、子供たちがバプテスマと最初の聖約について学ぶのに役立つお話や活動を見つけてください。

嵐の中の平安

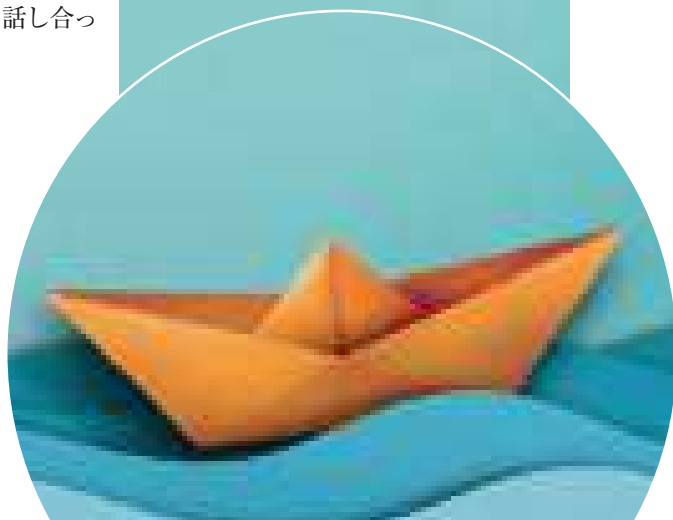
イエスが嵐を静められたことについて、イラスト付きの聖文の物語を読んでください。また、地震のときに平安を見いだしたペルーの少女について学びましょう。

キリバスでイエスに従う

わたしたちの友達のスコットを紹介しましょう。スコットがどのようにイエスに従っているかを見てみましょう。そして、キリバス諸島についてさらに読みましょう。

小さなお友達へ

若い読者のためのお話や活動、また子供たちに『わたしに従ってきなさい』から原則を教えるための学習のヒントを見つけてください。



年を取っても、慈愛はいつまでも絶えることがない

教会機関誌

リチャード・M・ロムニー

「わたしたちは教会で最高齢の扶助協会会長会かもしれない」と、シャロン・アレクサンダーは言います。シャロンは最近89歳になったところです。そして顧問のマーリーン・ピーターソンとドロシー・アールドは、それぞれ90歳と91歳です。「つまり、平均で90歳なんです」とドロシーは笑います。

この扶助協会会長会は、アメリカ合衆国ユタ州オグデンにある自立生活施設の支部で奉仕しています。この施設には高齢の教会員が大勢入居していて、会長会が歩行器を使って部屋から部屋へと訪ね歩き、人々にあいさつをし、皆問題なく過ごしているか

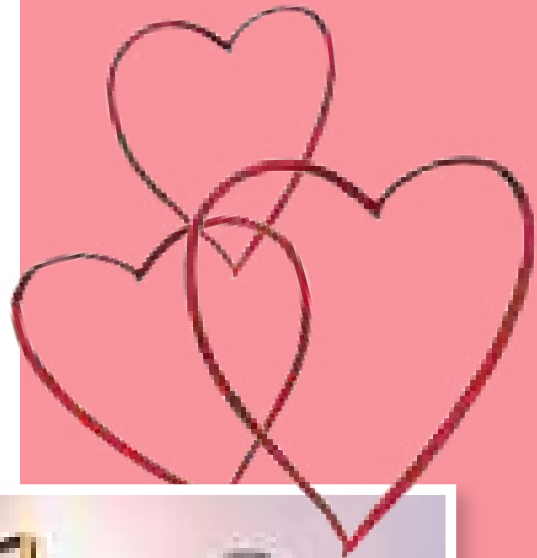
を確認している姿がよく見られます。

以前は、地元のワードの人たちがそうしたミニスタリングの訪問をしていました。しかしあるときステーク会長が、どの入居者が何の召しで奉仕できるかを主に尋ねるよう、支部会長会に勧めらるべきだという促しを感じたのです。

断るにはあまりに多くの祝福を受けてきた

「支部会長から、扶助協会会長の召しを伝えられたとき」とシャロンは言います。「わたしは思ったんです。これを断るには、わたしはあまりに多くの祝福を受けてきた、と。」そして今度はシャロンが、だれが顧問になるべきかについて

高齢で扶助協会会長会に召されたこの女性たちは、経験と理解を持ち寄って奉仕をしています。





靈感を受けました。「まずマーリーンが心に浮かびました」とシャロンは言います。

「わたしたちは以前、ステーキレベルとともに働き、神殿の儀式のために名前を準備していました。

マーリーンが最近夫を亡くしたことは知っていました。彼女はそのことで苦しんでいましたが、わたしは彼女が忠実な人であることを知っていました。」

その後、ある聖餐会の後、シャロンは靈感を求めながら部屋を見回しました。「ドロシーの姿が見えました。彼女がわたしにほほえみかけたとき、彼女がもう一人の顧問であることが分かりました。主はわたしを二人のもとに導いてくださり、いずれの場合も主の導きに間違いはありませんでした。」

大きな家族のように

シャロンはまた、施設の入居者がほかの入居者に奉仕することには利点があると言います。「わたしたちは相手の状況に近いところにいます」とシャロンは言います。「わたしたちは、自分たちが時にむなしい気持ちになり、時にたくさんのことを忘れてしまい、時にとにかく気分がすぐれないことがあるのを理解しています。また、自分たちが直面している問題を一緒に笑い飛ばす方法も知っています。」

「ここで暮らしている人たちは、すでに大きな家族のようなものです」とマーリーンは言います。「食事は一緒に取るので、一日に3回は顔を合わせます。それから、活動で一緒に過ごすこともあります。ですから、ステーキ会長がここには互いに仕え合える人たちがいると感じたとき、会長は靈感を受けたのだと思います。」

「わたしたちは日々、何が起きているかを知っています。だれかが助けを必要としているときや病気になったときには、それを知っているのです」とドロシーは言います。

ミニスタリングをしたり、ほかの人がミニスタリングをするのを助けたりすることに加えて、会長会は、扶助協会のレッスンを編成しています。教える召しを受けられそうな入居者を提案し、それぞれの教師の必要に応じて割り当てとスケジュールを調整します。

覚えていてください、主はあなたを愛しておられます

「けれども、わたしたちのおもな仕事は、ほかの入居者たちに主が彼らを愛しておられることを思い起こしてもらうことです」とマーリーンは言います。「そうするとき、わたしたちもまた主の愛を感じます。」

「だれもが悩みを持っています」とシャロンは言います。「今のわたしは、5か月前にはなかった問題を抱えています。でも自分を哀れむ気持ちになったときには、わたしはこう考えるのです。『ちょっと待って、救い主が経験されたことに比べれば、こんなこと何でもないわ』って。わたしたちは進歩し、成長するためにここにいます。年を取っていても、経験から学ぼうという姿勢があれば、永遠に学び続けることができるのです。」

それぞれが愛する人を失う経験をしてきたため、会長会のメンバーは思いやりについても多くのことを学んできました。彼女たちは慰めを必要としている人たちを助ける方法を知っています。例えば、マーリーンは1年の間に4人の家族と、親友を失いました。

「自分たちがつらい経験をしてきたので、ほかの人がつらいことを乗り越えるのを助けることができるのです」とマーリーンは言います。「もしあなたが何かに苦しんでいるなら、夢中になってほかの人に奉仕してください。この召しは、わたしがそれを実践する助けとなってきました。」

会長会のメンバーは、豊富な経験と理解を持ち寄って召しを果たしています。彼女たちはカリフォルニア州、オハイオ州、ワイオミング州、ユタ州など、多くの場所で暮らし、働いてきました。神殿で、ワードやステーキの召しで、そして初等協会や若い女性や人道支援で奉仕してきました。しかし、ドロシーが扶助協会の召しを受けたのは今回が初めてです。

「扶助協会のモットーは何でしょうか」とドロシーは言います。「『慈愛はいつまでも絶えることがない』です。これはわたしたちが若いときも真実ですが、年を取ってからも同様に真実です。会長会として、わたしたちはそのことを日々学んでいます。」

「わたしたちはとてもうまくやっていると自覚しています」とシャロンは言い、ウインクをしながら続けます。「平均年齢90歳の会長会にしてはね。」■



マルコ5:22-24, 35-42





中央若い女性会長
ボニー・H・
コードン会長

起き上がらせる力

わたしたちは救い主による救いを待っている人たちを高める手助けができます。

負けた。またしても。わたしは頭をがくりと垂れて椅子にへたり込みました。わたしはただ見ていただけでしたが、それでも立ち上がる気力はありませんでした。チームは精いっぱい頑張りました。けがをした人たちもいました。何人かは足を引きずりながらフィールドを後にしていきます。自分の高校のサッカーチームが連敗を喫したことで、わたしたちはただ負けたのではなく、心が打ち砕かれてしまったのです。

落胆に押しつぶされそうになっていたそのとき、チーム最年少の女子選手の一人がわたしのそばを通りかかりました。わたしは一瞬にして、彼女の目的意識に満ちた表情に引き付けられました。

じっと見ていると、彼女は何歩か歩く度に、仲間の女の子たち一人一人に手を差し出していました。でもそこには敗北を認める意味合いはありませんでした。そうではなく、彼女は一人一人に、賛美と、慰めと、思いやりを届けていたのです。「あなたがすべてのパスを受けようとあんなに必死に走るのを見たことないよ。あなたのベストゲームだったね。」また別の仲間には、こう言っていました。「すごい試合だったじゃない。ほんとうに、あなた今日はさえてたよ！」

ハイタッチをする度に、彼女は片方の手で相手の手をしっかりと握り、もう片方の手で肩を抱いたり、すり傷のある、芝の染みの付いた脚をポンポンとたたいたりしていました。わたしには、彼女が内に何かを携えているのが感じられました。その力が何らかの形で彼女からチームの一人一人の心に伝わっていくのです。悲痛と落胆の表情が和らいで、笑みがこぼれ始めました。ゆっくりと、一人ずつ、選手たちは立ち上がり、新たな感情が辺りの空気を揺り動かしました。

すり傷や痛みが何だというのでしょうか。怒りやいらだちが何だというのでしょうか。だれもそんなことを気にしていませんでした。それにしても、どうしてただ手を差し出すだけで、人をつらく苦しい状態から目的と強さを感じられる状態へと引き上げることができたのでしょうか。

救い主が持っておられる人を高める力と、サッカーチームにいたわたしの友人のように、わたしたちにどのような助けができるのかについて、わたしが

学んできたことを分かち合いたいと思います。

新約聖書に、ヤイロの娘についての次のような話があります。

「そこへ、会堂司のひとりであるヤイロという者がきて、イエスを見かけるとその足もとにひれ伏し、

しきりに願って言った、『わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がなおって助かりますように、おいでになって、手を置いてやってください。』

そこで、イエスは彼と一緒に出かけられた。」(マルコ5:22-24)

そこで、イエスは彼と一緒に出かけられた

わたしはこの「イエスは彼と一緒に出かけられた」(マルコ5:24)という箇所が大好きです。奇跡はまだ起こっていませんでした。事実、この家族が懇願している救いを受ける前に、ある悲劇的な遅れが生じることとなります。しかし、キリストはすでに彼らとともに歩んでおられました。

自分ではできないことが必要なとき、わたしたちは、イエスは来てくださると信頼することができます。そして、自分の生活や愛する人の生活の中で信仰をもって主の奇跡を待つとき、主はわたしたちとともに歩んでくださると信頼することができます。救い出されるまでの道中でわたしたちを待ち受けている不安や恐れや悲しみの中を、主はわたしたちとともに歩んでくださるのです。

「おいでになって、手を置いてやってください」

わたしたちは癒しを与えることはできません

どうしてただ手を差し

出すだけで、人をつらく

苦しい状態から目的と

強さを感じられる状態

へと引き上げることが

できたのでしょうか。

が、ヤイロのように、癒し主であられるイエス・キリストを愛する人々のもとにお連れすることはできます。ヤイロは、救い主の手が、人をつらく苦しい状態から目的と強さを感じられる状態へと引き上げてくださることを知っていました。

わたしはそれを、人々に光を与えたあのサッカー選手の中に見ました。彼女はサッカーフィールドでキリストの光を分かち合いながら、主に癒しの業を行っていただけるようにしていました。主の光を掲げることで、彼女はイスラエルの集合を助けていたのです。

わたしたちはだれもが、自分以外のだれかに救ってもらうことが必要になります。それは心もとないように思えるかもしれませんが、わたしたちは天の御父を信頼することができます。御父は、わたしたちを絶望から引き上げるのを助けてくださる救い主を備えてくださいました。そしてわたしたちも、わたしのサッカーのヒーローが行ったように、主とともに参加することができるのです。

でも、主の祝福がやって来るのを待っている間に事態が悪化したら、どうすればよいのでしょうか。

「このうえ、先生を煩わすには及びますまい」

キリストがヤイロの家に向かっておられる途中で、遅れが生まれました。通りは人であふれていて、主が道を通り抜けようとしておられたとき、同じように主の癒しの手を待ち望んでいた信仰深い女性が、主の衣に触れました。

「それは、せめて、み衣にでもさわれば、なおしていただけるだろうと、思っていたからである。

すると、血の元がすぐにかわき、女は病気がなおったことを、その身に感じた。」(マルコ5:28-29)

ヤイロの焦りはいかばかりだったのでしょうか。この遅れにどれほど気をもんだことでしょうか。ヤイロが自宅を出たとき、娘はすでに死の淵にあったのです。そして、救い主が癒された女性を探し出し、彼女と話しておられたとき、ヤイロの家からやって来た人が悪い知らせを伝えます。「あなたの娘はなくなりました。このうえ、先生を煩わすには及びますまい。」(マルコ5:35)



長い間待っていた女性にとっては何という祝福でしょう！一方で、待てる時間がまったくなかったヤイロとその家族にとっては、何という悲劇でしょう！時々、待っている間、主は来てくださるという希望を保つのが難しいことがあります。ヤイロと家族にとっては、もはや彼らが必要としていた奇跡を望むには遅すぎるように思えました。娘は死んでしまったのです。なぜこのうえさらに主を煩わそうというのでしょうか。

なぜでしょうか。それは、わたしたちが時々救い主の奇跡に対して設けてしまう限界には、何の意味もないからです。主はわたしたちが設ける期日に縛られることはなく、どのようなことが可能かについて、わたしたちの理解によって救い主の力が制限されることもないのです。

信仰の目で待ち望むならば、わたしたちは主の救いがやって来るという確信を得られるでしょう(アルマ58:11参照)。その確信は、わたしたちの心を変え、主を信じる信仰を確認してくれます。たとえ機会が過ぎ去ったように思えても、主は来てくださいます。あなたの瞬間が必ず訪れます。

「恐れることはない。ただ信じなさい」

悪い知らせを聞いた救い主は、すぐにヤイロにこう言われました。「恐れることはない、ただ信じなさい。」(マルコ5:36) ヤイロに対する救い主の言葉は、待っているわたしたちを安心させることに、主がどれほど心を砕い



「すると、少女はすぐに起き上がり、歩き出した」

瞬間にヤイロの娘には命が戻り、「少女はすぐに起き上がり、歩き出し」(マルコ5:42) ました。現世で、わたしたちは床に臥し、そこから起き上がらなければならないことがあります。その床は一人一人にとって少しずつ違うものでしょう。競技場で敗れた後の落胆である場合もあれば、愛する人の死である場合もあります。苦しみは必ず訪れます。しかし、主がわたしたちを見捨てられることは決してありません。どんなに悲惨で、救いようのない状況に思えたとしてもです。時々、主はわたしたちが生気のない地や荒れ果てた地を歩くのを許されることがあります。それは、主が手を伸べて、そこを命で満たすことができになるようにするためです。

主の贖罪のしるし、すなわち両手の釘の跡によって、主はわたしたちに、わたしたちこそが主の務めであることを示しておられます。「見よ、わたしはあなたを、わたしの手のひらに彫り刻んだ。」(1ニーフアイ21:16) キリストの務めは、昔も今もこの先も変わることなく、わたしたちを肉体的にも霊的にも逃れられない死からよみがえらせることであり、そのすべては主の贖いの犠牲を通して可能となります。

そのような心痛や困難が起こるとき、わたしたちは、両方の手のひらにしるしのある御手が、優しさと愛だけでなく、乗り越えるための力をもたらししてくれるのを思い描くことができます。主を信じる信仰を働かせることによって、世の贖い主による完全な回復が、わたしたちが直面するあらゆるものに打ち勝つでしょう。そしてわたしたちは、主の手に触れていただくことを必要としている人たちのために、主の手の延長になることができます。

わたしたち一人一人が自分自身の弱さから、そしていずれは墓からも引き上げられることを証します。覚えていてください。たとえすべてが失われたように感じて、主はそばにいて、救いの力を持つ手を差し伸べておられます。主がその手をあなたの手の方に差し伸べて、こう宣言されるときにもたらされる喜びを想像してください。「さあ、起きなさい。」そしてわたしたちは起き上がるのです。■

注

1.『歴代大管長の教え—ハワード・W・ハンター』136 参照

ておられるかを示しています。主の務めは、たとえわたしたちが立ち止まってしまうときでさえ、止まることはありません。主は直ちに、信仰をもって進むようヤイロを促されました。

「〔イエスは〕内にはいって、彼らに言われた、『なぜ泣き騒いでいるのか。子供は死んだのではない。眠っているだけである。』……

そして子供の手を取って、『タリタ、クミ』と言われた。それは、『少女よ、さあ、起きなさい』という意味である。」(マルコ5:39, 41)

お気づきでしょうか。「子供の手を取って」とあります。主の手には力があります。ハワード・W・ハンター大管長(1907-1995年)はかつてこう言いました。「イエスが手を置かれた者は皆生きるのです。」¹ 主の癒しの手をさらに受けるために、わたしたちは何ができるでしょうか。そしてわたしたちはどうすれば主の手となって、心痛や絶望の時にある人々を引き上げるのを助けられるでしょうか。

わたしたちはどうすれば主の手となって、心痛や絶望の時にある人々を引き上げるのを助けられるでしょうか。



救い主はわたしをどのように 助けてくださるだろうか

イ エス・キリストは「よい働きをしながら……巡回されました。」(使徒 10:38) 主は重い皮膚病にかかった人を癒されました(マタイ 8:2-3 参照)。自分はふさわしくないと感じながら、それでも救い主は助けてくださると信じた百卒長の僕を癒されました(マタイ 8:5-13 参照)。嵐のときに弟子たちに平安を与えられました(マタイ 8:23-27 参照)。一人息子の死に打ちのめされた女性を見たとき、慰め、希望を与え、その後、息子を死者の中からよみがえらせられました(ルカ 7:11-15 参照)。

活動

主を信じる信仰を働かせるとき、わたしたちは今日、救い主の力を覚えることができます。今週の「わたしに従ってきなさい」の読書課題の中から、話の一つを選んでください。救い主が人々の必要と信仰にどのようにこたえられたかに注目しましょう。

あなたの生活の中で救い主がどのように助けてくださったかを考えるために、以下の質問について深く考えるか、話し合ってください:



- どのようなときに救い主から予期せぬ助けを受けただろうか。
- どのようなときに奇跡や深い憐れみを通して主の御手を見ただろうか。



- これまでどのようなときに、わたしは救い主に信仰を寄せ、主の癒し(情緒的、精神的、霊的、身体的)を感じたのだろうか。
- どのようなときに主の平安を感じたのだろうか。



- 今の生活の中で、主を信じる信仰を強め、主の助けを受けるにはどうすればよいだろうか。

「キリストのもとに来るよう確固たる決心をして主とともにくびきを負うとき、わたしたちは祝福され、主の無限にして永遠の贖いによって清められ、癒され、強められるのです。」

十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー
長老「しかしわたしたちは、彼らのことを気に留めなかった」『リアホナ』
2022年5月号, 15





主によって召されるとは どういう意味か

マタイ10章で、救い主は十二使徒を聖任して、御自分の福音を宣べ伝え、御自分の教会を設立し始めるための力と権能と知識を彼らに与えておられます。主はまた、癒し、霊を追い出し、権能をもって語るための力も約束しておられます(1, 20 節参照)。マタイ10章で、主が使徒たちをその召しに備えられた話を読みながら、主があなたを教会での奉仕のためにどのように備えてこられたかについて考えてください。

主の勧告

主は使徒たちに、それぞれの務めを果たせるように、彼らの助けや支えとなるであろう幾つかの重要な指示も与えられました。この勧告の多くは、わたしたちの奉仕にも当てはまります。マタイ10章の次の節を読み、主が使徒たちに与えられた指示と招きを書き留めてください。

8節: _____

19節: _____

29-31節: _____

39節: _____



話し合い

あなたはこれまでどのようなときに、召しをよりよく果たすための啓示や力を受けましたか。あなたの教会での奉仕を助けるために、主はこれまでどのような約束された祝福をあなたに与えてこられたでしょうか。

あなたが教会で奉仕するよう召されるとき、主はあなたが主の業を行うのを助けてくださいます。主はあなたを祝福し、経験や指示や啓示を与えてくださるでしょう。あなたは任命され、自分の召しを果たすために神から権能を受けるでしょう。あなたの召しにおける責任について、詳しくは Church of Jesus Christ.org にある「総合手引き」で学ぶことができます。

© 2023 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. This document is a translation of the original English text. For more information, visit ChurchOfJesusChrist.org.



安息日を聖く保つとは どういう意味か

ラッセル・M・ネルソン大
管長は、若いころに自分
が安息日に行くことと行
わないことのリストを学習したこと
について話しています。後に大管
長は聖文から、安息日の自分の行
いと態度は、自分と天の御父の間の
しるしであることを学びました(出
エジプト 31:13 参照)。

ネルソン大管長はこうっていま
す。「そのことを理解すると、もう
行うことや行わないことのリストは
不要でした。ある活動が安息日に
ふさわしいかどうか判断する必要
がある場合、こう自問するだけでし
た。『自分は神にどんなしるしを差
し出そうとしているだろうか。』(「安息日は喜びの日」『リア
ホナ』2015年5月号, 130: 強調
は原文のまま)

活動

マタイ 12:1-13 から安息日についてのキリストの教えを
読んでください。イザヤ 58:13 と教義と聖約 59:9-
13 も参照するとよいでしょう。これらの教えの中で見つけ
た教義上の原則を表に書き込みましょう。家族で、これらの
教えを今日実践できる方法を話し合います。自分の考えを、
「現代における実践」の欄に書き込んでください。



イエスの教え	現代における実践



話し合い

家族で、ネルソン大管長の「自分は神にどんなしるし
を差し出そうとしているだろうか」という質問につい
て考え、「安息日に良いことをする」(マタイ 12:12)
ために、具体的にどのような努力ができるかを話し合
いましょう。



キリストはどのように、 すばらしいことを行うかを わたしに授けてくださるだろうか

生涯を通じて、キリストに近づき、御霊の声を聞くことを学ぶ中で、自信が持てないことを行うように求められることがあるかもしれません。水の上を歩いたペテロのように、キリストに心を向け、十二使徒定員会のクエンティン・L・クック長老が教えているように、「恐れではなく、信仰によって生き〔る〕」「〔恐れではなく、信仰によって生きる〕『リアホナ』2007年11月号, 70) かぎり、わたしたちは不可能だと感じることを行う力を授かることができます。

活動

マタイ 14 : 22 - 33 を読んで、ペテロの経験を簡単に説明してください。

ペテロはどうして水の上を歩くことができたのでしょうか。



ペテロはなぜ沈み始めたのでしょうか。



主はどのようにペテロを助けられたのでしょうか。



わたしたちがキリストに心を向けるとき、主はいつもそばにいて助けてくださいます。

話し合い

主は何を行うようにわたしたちを招いておられるでしょうか。あなたの信仰は、あなたが何を成し遂げるのを助けてくれるでしょうか。恐れに打ち勝つために、あなたは何かができるでしょうか。



ユダヤ人の 埋葬の慣習

ラザロ、マルタ、マリヤは、ベタニヤの町に住むきょうだいでした。彼らは救い主の友人であり、主は何度も彼らのもとを訪ねられました。主の務めのある時期に、イエスはベタニヤのあるユダヤを離れられました。その地域のユダヤ人たちがイエスを殺すことを望んでいたからです（ヨハネ 10：39 - 40 参照）。イエスはその地を離れていた間に、ラザロは病気になる、亡くなり、ユダヤ人の慣習に従って埋葬されました（ヨハネ 11：1 - 17 参照）。

以下に、ラザロの死と埋葬の際に行われたであろう慣習の一部を紹介します。

1



人が亡くなると、その人の目は閉じられます。体はナルド、ミルラ、アロエなどの香料を使って洗われました（ルカ 23：56；ヨハネ 19：38 - 40 参照）。

4



一部の墓は、岩に穴を開けて作られていました（マタイ 27：58 - 60 参照）。墓の開口部は小さく、中に入るには頭を下げなければなりませんでした。

2



遺体は布に包まれて家族の家に運ばれ、そこに親族や隣人が訪れました（使徒 9：37 参照）。

5



遺体は石から切り出された台に置られました。盗人や動物が入るのを防ぐために、墓は大きな丸い石で塞がれました。¹

3



通常、死後8時間以内に、遺体は訪れたすべての人に見えるように担架で墓に運ばれました（ルカ 7：12 - 14 参照）。女性たちが行列を先導しました。悲しみのしるしとして、家族は自分たちの衣服を引き裂きました。

イエスがラザロを死からよみがえらされた後、主の弟子たちは、愛する人を失ったことをただ悲しむだけでなく、希望を持つべき力強い理由を得ました。イエス・キリストのおかげで、「墓が勝利を得[ず]、そして死がとげを持たない」（モーサヤ 16：7）ことを、彼らは否定することはできませんでした。

注

1. See Henri Daniel-Rops, *Daily Life in Palestine at the Time of Christ* (trans. Patrick O' Brian, 1962), 328-33; see also Bible Dictionary, "Burial."

ラザロをよみがえらせる

「〔イエスは〕大声で『ラザロよ、出てきなさい』と呼ばわれた。
すると、死人は手足を布でまかれ……たまま、出てきた。イエスは
人々に言われた、『彼をほどいてやって、帰らせなさい。』」
ヨハネ 11:43 - 44



ヤングアダルト

不確かな世界で、どうすれば
前向きでいられるでしょうか

30



帰属意識

3つの招き

8

人道支援奉仕

助ける方法は
たくさんあります

14

福音の基本

神権の祝福

22

